

## 荷重管理ソフト INSIGHT 取扱説明書



本書の内容は情報提供のみを目的としています。  
この取扱説明書の正確性には万全を期していますが、  
記載内容に一切誤りや欠落がないという保証はありません。  
製造元は技術仕様を予告なく変更する権利を有しています。

## 目次

●ご使用の前に	3
* 概要	3
* INSIGHTをお使いの前に	3
* コンピュータの動作環境	3
* インストール	3
●USB dongleの取付	4
●INSIGHTの実行	5
●INSIGHTの有効化	6
●ロードセルの環境設定	8-9
●プロジェクトの設定	10-15
・表示単位	11
・ロギング方式	11
・ロギング周期 (ms:ミリ秒)	11
・ロギング先ディレクトリー	11
・RFチャンネルとセキュリティーキー	11
・過荷重率	11
* ロードセルの登録	12-15
・説明	12
・アラーム設定	13-14
・数式を利用した荷重値表示	14
・高度な設定	15
●ロードセルデータの表示	16-19
* ロードセル関連の表示アイコン	18
●データロギング	19-20
* ログデータファイルの形式	20
●バックアップ・復元機能	21
●ロードセルチャート	21
●データの視覚表現	22-23
●レポート機能	29-31
●重心(COG)測定	24-28
●ブルーテストプラス(PTP)	32-44
* 初期設定	33
* エンジニア設定	34-35
* ロードセルの選択	36
* 顧客設定	37-38
* 荷重テストの設定	39
* 荷重テストの実行	40-42
* テストレポート/証明書	43-44
●付録A Windows10へのソフトウェアインストール	45
●アイコン一覧	46

## ご使用の前に

### 概要

INSIGHTソフトウェアパッケージは、以下の機能を有しています。

- 手持ち式ディスプレイ(SW-HHP)と同等の動作性能。
- ロードセルの読取データの記録、グラフ化、ログレポートの作成。
- 現場画像取り込みによる、作業環境と各ロードセル位置の視覚化。
- 重心(COG)の算出、及びCOGレポートの作成。
- ブルーテストの実行、及び証明書の発行()。

### INSIGHTをお使いの前に

INSIGHTソフトウェアを使用するには、USB dongle(SW-D)と1台以上のロードセルを使用する必要があります。

### コンピューターの動作環境

- プロセッサ: 3GHz以上
- RAM: 4GB (NET4.5.2以降で自動的にインストールされた)
- Windows®7、Windows®8またはWindows®10 (英語のオプションを選択する必要があります)
- 予備のUSBポート(ハブではない)

### インストール

以下のいずれかの方法で開始してください。

SW-D USB dongle付属のカードに表示されたQRコードを読み取りソフトウェアをスマートフォンにダウンロードします。ダウンロードが完了したら、ファイルをオンラインまたはオフラインでコンピューターに転送します。またはURL ([www.straightpoint.com/software/insight.zip](http://www.straightpoint.com/software/insight.zip)) をウェブブラウザのアドレスバーに入力して、ソフトウェアをコンピューターに直接ダウンロードします。ダウンロードが完了したらダウンロードしたファイルをダブルクリックしてください。ソフトウェアが自動的にインストールされます。

ご使用のWindowsのバージョンによっては、このINSIGHTソフトウェアがコンピューターに損害を与える可能性があることが通知され、インストールの許可が求められる場合があります。その場合は、ソフトウェアをインストールするパスを指定してください。

### 重要事項:

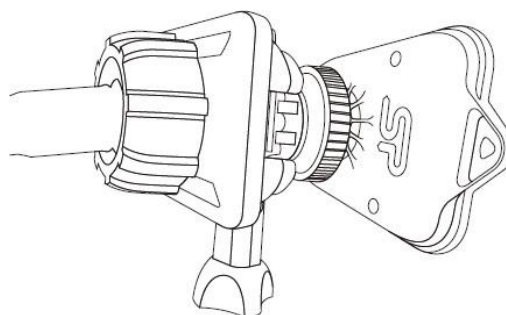
Windows10にソフトウェアをインストールする場合は、本取扱説明書の「Windows10へのソフトウェアのインストール」(28ページ)に進み、記載されているアドバイスをお読みください。

## USB Dongleの取付

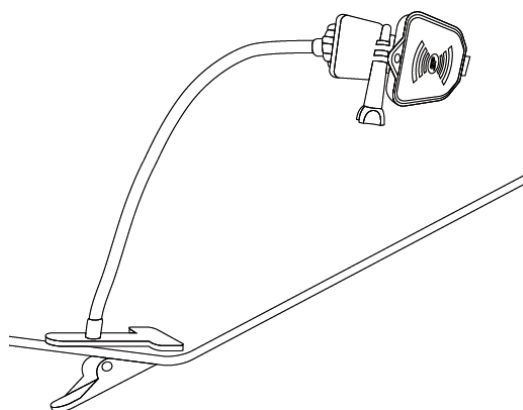
USB Dongleをコンピューターに差し込んでください。  
ドライバーをインストール必要はありません。



SW-D USB Dongleとロードセルとの良好な接続状態を確保するための手段として、スポーツカメラやアクションカメラ（Go-proなど）の取付キットにDongleを取りつける方法があります。



Dongle正面とロードセルが正対するように、Dongleの向きを調整して取り付けてください。  
なおDongleはUSB延長ケーブルを使用してコンピューターに接続してください



## INSIGHTの実行

有効化の手順は7ページの「INSIGHTの有効化」を参照してください。

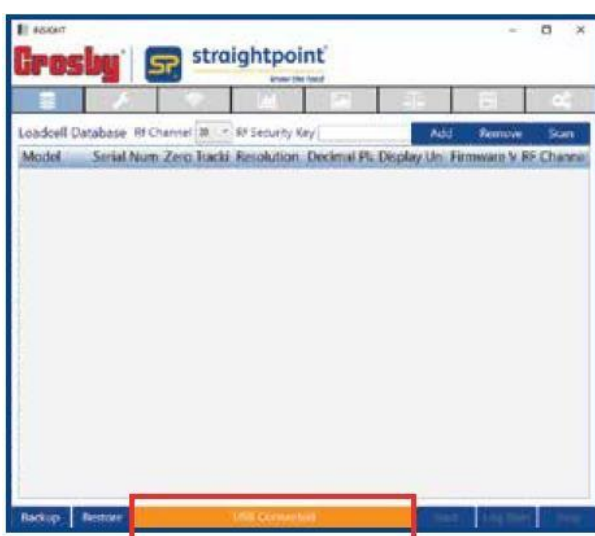


INSIGHTアイコンを探すか、Windowsの検索バーに「INSIGHT」と入力し、INSIGHTアイコンをダブルクリックして実行します。

以下の画面がすぐに表示されます(以下を参照)。

初めてINSIGHT使用する場合は、INSIGHTの有効化が必要です。

上の画面に続いて、下の画面が表示されます。



注記: USB ドングルが正しく差し込まれたら、画面の下に「USB Connected(USB 接続)」とオレンジ色で表示されます。

## INSIGHTのアクティベーション

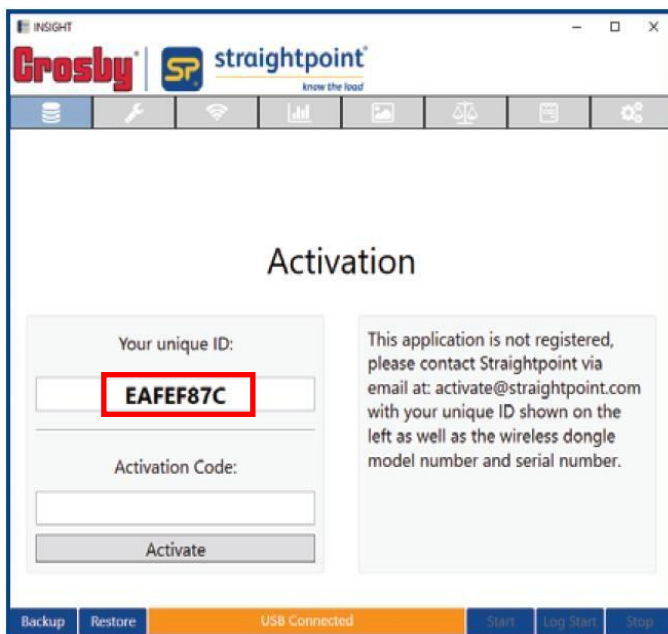
**重要事項:** INSIGHT を実行するには、アクティベーションを行う必要があります。

下の画面が表示された場合、INSIGHTはアクティベーションされていません。

有効化にはアクティベーションコード(Activation Code)をEメールにてメーカーに申請する必要があります。

申請にあたっては次の情報が求められますのでご確認ください。

- ユニークID(下記画面に記載、この場合はA22ED5CE)
- ドングルの型番(SW-D)
- ドングルのシリアル番号(ドングル裏面に記載)



次に、EメールでActivation Codeを申請します。

メールフォームは下記URLリンク又はQRコードからご利用いただけます。

初めての申請の場合: <https://mail-to.link/m9/4grmxsf>



同じドングルで再申請の場合: <https://mail-to.link/m9/31hz6hf>

※ドングルはPC1台につき1個使用し、

PC複数台での使い回しはご遠慮ください。



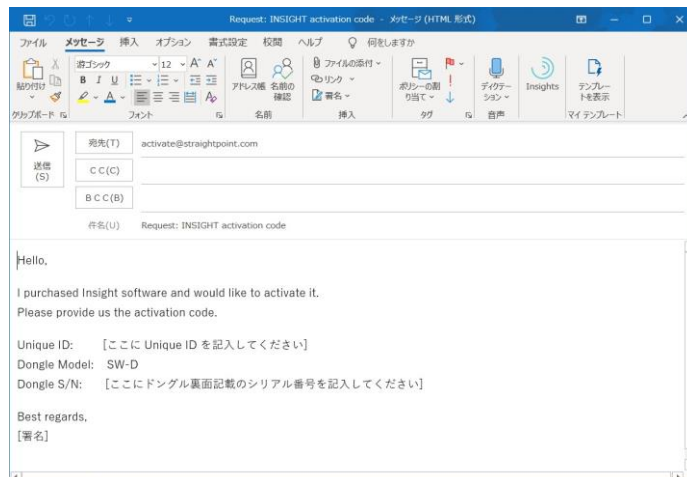
上記URLリンク又はQRコードを読み取ると下記メール作成用リンク画面が表示されます。

”メール作成画面はこちら”をクリックするとメールソフトが立ち上がります。

(文字化けする場合は画面内の”[こちらから](#)”をクリックしてください。)



[Unique ID]、[ドングルのシリアル番号]、[署名]をお客様にて入力いただき、Eメールを送信してください。



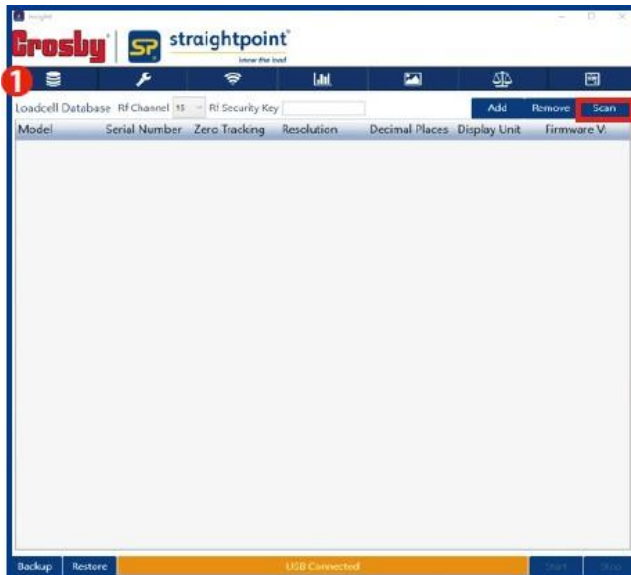
Activation Code (アクティベーションコード) を記載したEメールがメーカーより返信されます。

再びINSIGHTを起動しP.8の画面が表示されたら、空欄にコードを正しく入力し、[有効化ボタン(Activate)]をクリックしてください。メッセージが消え、ソフトウェアの全機能を使用できるようになります。



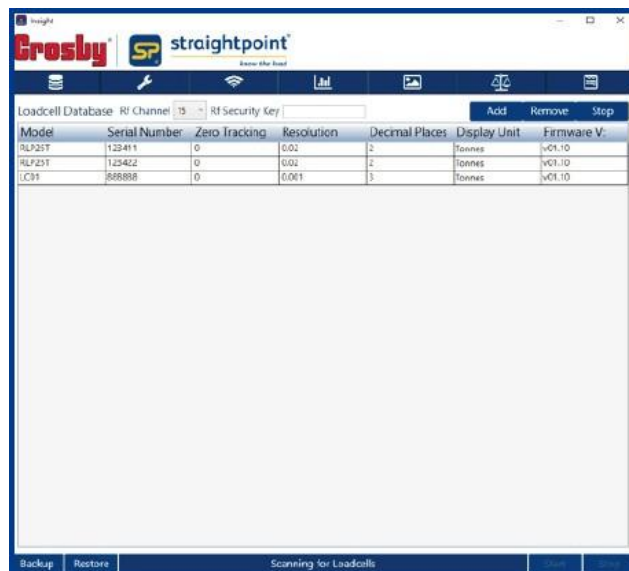
## ロードセルの環境設定

INSIGHTの各種機能を使用できるようにするためには、ロードセルをデータベースに登録する必要があります。  
ストレートポイント社のロードセルを少なくとも 1 台準備してください。



操作画面の左上隅に表示された  
ロードセルのデータベースアイコンを選択します。

ロードセルにバッテリーが挿入されていることを  
確認して、右上隅の[Scan(スキャン)]ボタン  
(左図の赤枠)をクリックします。

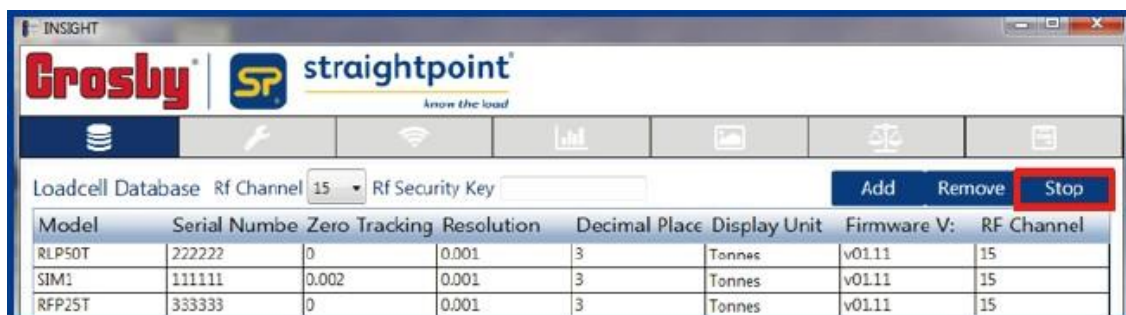


スキャンが開始されたら、使用可能なロ  
ードセルが1分以内にロードセルデー  
タベースウィンドウに表示されます。

注記: RFチャネルまたはセキュリティキーが[RF Channel(RFチャネル)]ドロップダウンオプションに表示されて  
いるものと異なる場合は、これらを正しく設定しなければ、スキャンを開始できません。正しいチャネルまたは  
キーに設定されていない場合は、ロードセルが表示されません。ロードセルの既定チャネルは15です。



必要なロードセルがウィンドウに表示されたら、[Stop(停止)]ボタン(下図の赤枠)を押して、スキャンを終了してください。



[Stop(停止)] ボタンをクリックしなければ、他の項目を編集できません。

エントリーをハイライトする場合は、そのエントリーをクリックしてください。データベースからロードセルを削除する場合は、ロードセルをハイライトしてから [Remove(削除)] ボタンを選択します。

ロードセルが表示されていない場合は、[Add(追加)] ボタンを選択して手動で追加することもできます。これを行うには、新しい空白のエントリーを選択し、バージョン番号以外の各フィールドに情報を追加します。データが自動的に保存され、「Saved load cell(保存されたロードセル)」メッセージが表示されます。

ロードセルのデータベースオプションに戻り、必要に応じてロードセルを追加することもできます。これで必要なロードセルがデータベースに追加され、INSIGHT ソフトウェアの他機能を確認できるようになります。

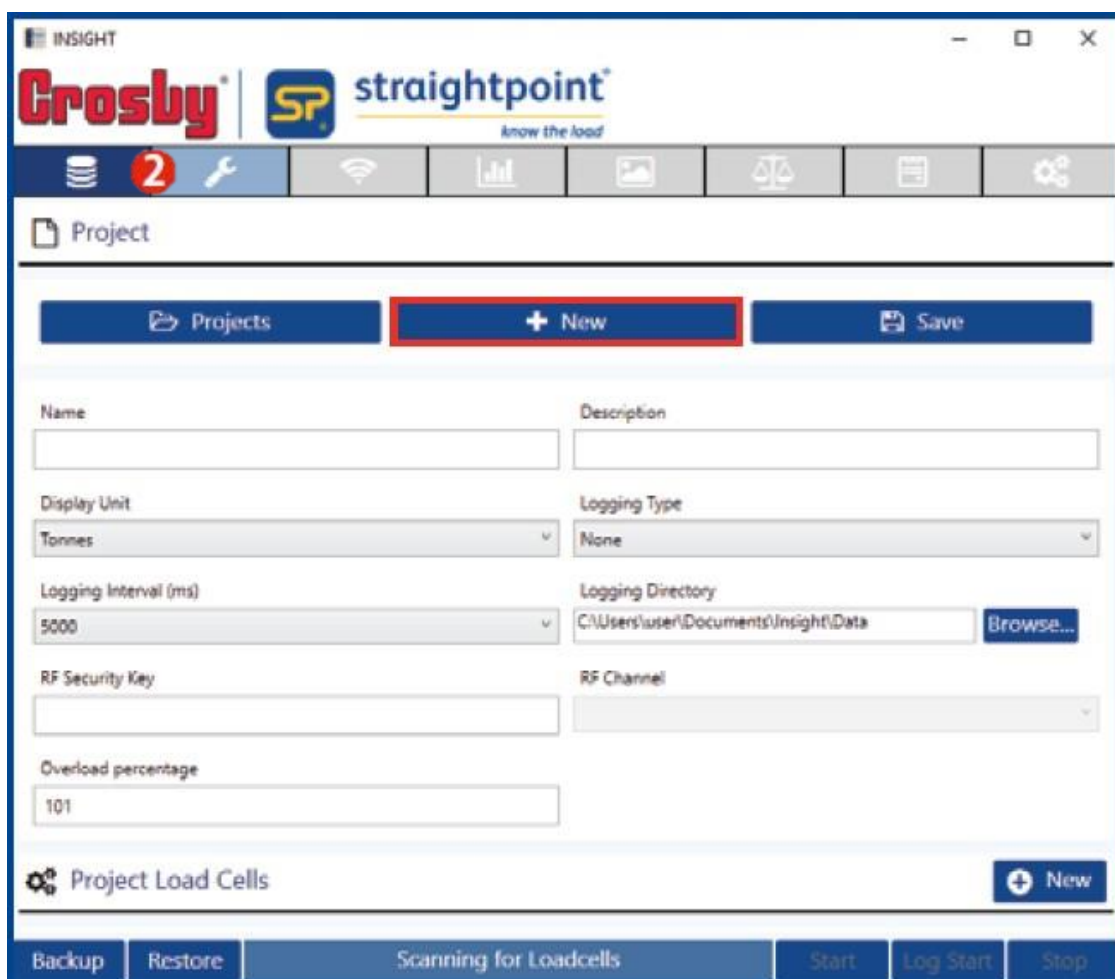
## プロジェクトの設定

ロードセルデータベースにデータを入力したら、次にプロジェクトを作成します。これを行わなければ、ロードセルのデータ表示やCOG(重心)の計算など、他の機能を利用することができません。プロジェクトを作成すると、ロードセルデータベースから1台以上のロードセルがプロジェクトに割り当てられます。

操作画面の左上隅にあるプロジェクトアイコン②を選択すると、  
下図のプロジェクトの設定画面が表示されます。



新しいプロジェクトを開始するには、[+New(+新規)]ボタン(下図の赤枠)をクリックします。  
これは、データフィールドにデータを入力する前に行う必要があります。



プロジェクトがすでに存在する場合は、[Projects(プロジェクト)]ボタン(以下に表示)を選択すると、ウィンドウにプロジェクトのリストが表示され、そこから1つのプロジェクトをクリックして選択することができます。

次に、必要に応じてプロジェクトの詳細を編集できます。[+New(+新規)]をクリックしたら、次の情報を入力してください。

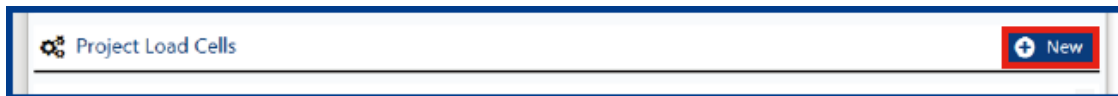
- **プロジェクト名**  
(Name) プロジェクト名を自由入力してください
  
- **内容**  
(Description) プロジェクト内容を自由入力してください
  
- **表示単位**  
(Display Unit) 次の4つの計測単位を選択できます  
☐ Tonnes(トン) ☐ Kilogram(キログラム)  
☐ Kilo Newtons(キロニュートン) ☐ Pounds(ポンド)  
 これらの単位は、ロードセルデータベースでの表示単位よりも優先されます
  
- **ロギング方式**  
(Logging Type) 次の5つのデータの記録方法を選択できます
  - ☐ なし…  
(None) 記録は行われず、ログデータファイルは作成されません
  
  - ☐ 継続…  
(Continuous) 設定されたロギング周期に従い自動的にデータを記録します  
プロジェクトに登録されている全てのロードセルに対し適用されます  
ロギングは[Log Start(ログ開始)]ボタンを押して開始します
  
  - ☐ 手動…  
(Manually Triggered) 手動でデータを記録します  
[Log(ログ)]ボタンを押した瞬間の単体のデータ値のみが記録されます。
  
  - ☐ アラーム発生時…  
(At Alarm) アラーム条件を最初に超えたデータ値をデータファイルに記録します  
ロギングは[Log Start(ログ開始)]ボタンを押して開始します
  
  - ☐ アラーム発生中…  
(While In Alarm) アラーム条件を超えている間のデータ値をデータファイルに記録します  
ロギングは[Log Start(ログ開始)]ボタンを押して開始します
  
- **ロギング周期 (ミリ秒)**  
(Logging Interval (ms)) データを記録する周期(ミリ秒単位)を選択します (1000ミリ秒=1秒)  
ここに値を入力すると、ロードセルで選択された測定周期が上書きされます  
ロードセルの測定周期よりも最小単位が大きいロギング周期は選択しないでください
  
- **ロギング先ディレクトリー**  
(Logging Directory) データファイルを保存するディレクトリーパスを入力します  
このパスは、COGレポートの保存にも使用されます  
  

注記:  
 既定パスは通常は 'C:\users\your-name\documents\Insight\Data' となります  
 ただし、お使いのネットワーク上で別の場所を指定しておくことも可能です。
  
- **RFチャネル**  
セキュリティキー  
(RF Channel / Security Key) 初期設定ではRFチャネル「15」を使用し、セキュリティキーは空白となっています  
これらの値はプロジェクトに追加された最初のロードセルから移されるため  
編集できません
  
- **過荷重率**  
(Overload Percentage) 過荷重となる値をロードセルの使用荷重の割合(%)で設定します  
過荷重になると、値の代わりに「OVERLOAD(過荷重)」のテキストが表示されます  
既定値は101で最大値は110です  
この機能をオフにする場合は、0(ゼロ)に設定してください

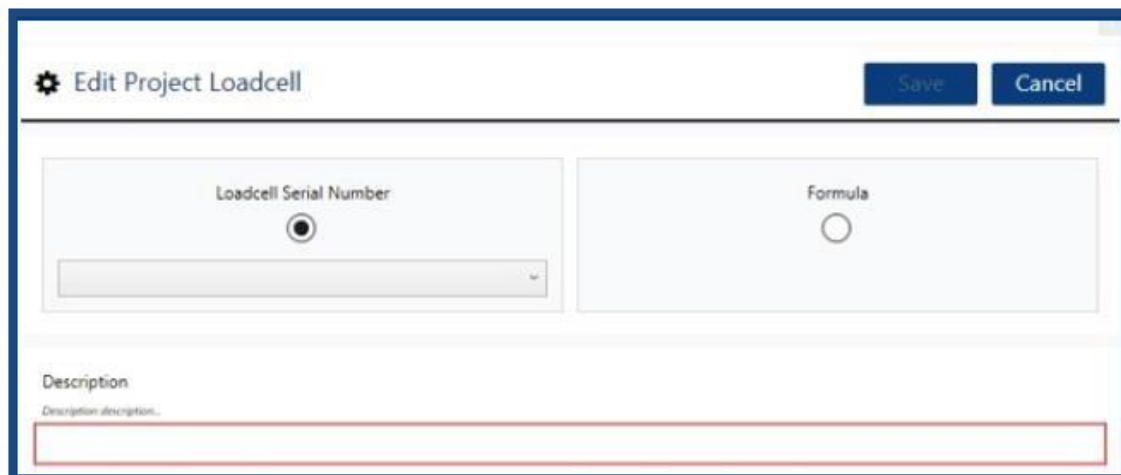
上記設定が完了したら、必ず[Save(保存)]ボタン  をクリックしてプロジェクト設定を保存してください。

## ロードセルの登録

プロジェクトの設定が完了したら、次にデータベースに登録されたロードセルをプロジェクトに関連付けます。  
操作画面下部の「Project Load Cells (プロジェクトロードセル)」の「+New (+新規)」ボタンをクリックします。



下図の「Edit Project Load Cell (プロジェクトロードセルの編集)」という画面が表示されます。  
ここでロードセルのプロジェクトへの登録、アラーム、重心測定の為の詳細、およびその他の設定を行います。  
またここではロードセルの計測値を利用した数式をデータ値として反映させる設定も行うことができます。  
数式を用いた設定の詳細についてはP.14をご覧ください。



まずロードセルのプロジェクト登録を行います。上記画面の「Load Cell Serial Number (ロードセルのシリアル番号)」のラジオボタンがオンになっていることを確認して下のドロップダウンメニューをクリックしてください。

「Formula (数式)」に選択が移動している場合は、再度「Load Cell Serial Number」を選択してください。

ロードセルデータベースに登録されたロードセルのシリアル番号の一覧が表示されます。

ドロップダウンリストに表示されるロードセルから、プロジェクト内で使用するものを1台選択してください。

これで選択したロードセルがプロジェクトに関連付けられ、ロードセルデータの表示やCOGの計算に使用できるようになります。

### 説明 (Description)

ここでの情報は、プログラムおよびレポート内でロードセルを識別するために使用されます。

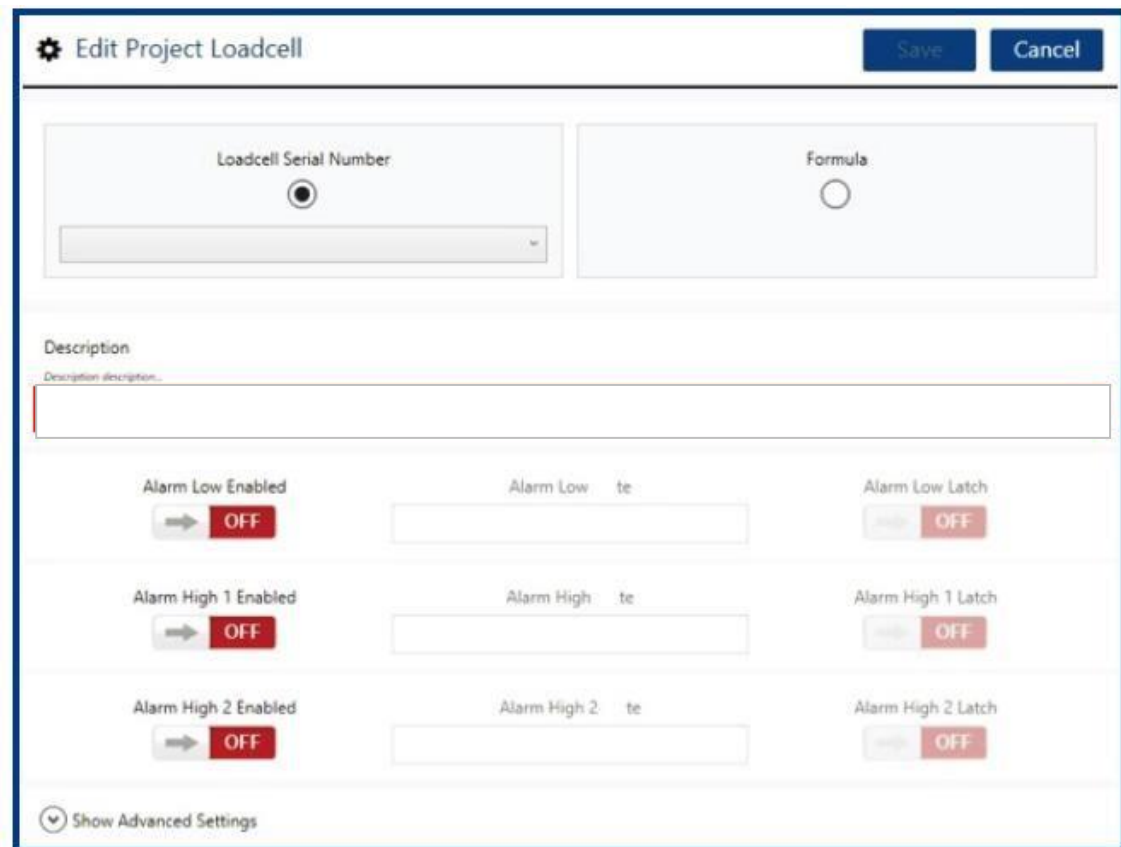
説明 (Description) 欄は自由入力です。既定ではロードセルのシリアル番号が表示されます。

他の項目を表示する前に、必ず「Save (保存)」ボタンを押してください。

## アラーム設定 (Alarm)

Edit Project Loadcell(プロジェクトロードセルの編集)画面下部ではロードセルのアラーム設定が行えます。

アラームは下限値アラーム及び上限値アラーム(2通り)を設定することができます。



各アラームの設定は、まず上図の各ボタンをクリックして[OFF (赤色)]から[ON (緑色)]に切り替えてください。  
次に画面中央の空欄に閾値(絶対値)を入力してください。この値は、先に選択している単位が適用されます。

- **下限値アラーム有効化 (Alarm Low Enabled)**      計測値が指定した閾値を下回るとアラーム条件が満たされます
- **上限値アラーム1有効化 (Alarm High 1 Enabled)**      計測値が指定した閾値を上回るとアラーム条件が満たされます  
このアラームは警告レベルと考えることができます
- **上限値アラーム2有効化 (Alarm High 2 Enabled)**      計測値が指定した閾値を上回るとアラーム条件が満たされます  
このアラームはエラーレベルと考えることができます
- **下限値アラーム保持 (Alarm Low Latch)**      下限値アラーム発生後、計測値が閾値内に戻ってもアラームを継続させます
- **上限値アラーム1保持 (Alarm High 1 Latch)**      上限値アラーム1発生後、計測値が閾値内に戻ってもアラームを継続させます
- **上限値アラーム2保持 (Alarm High 2 Latch)**      上限値アラーム2発生後、計測値が閾値内に戻ってもアラームを継続させます

## アラーム設定（続き）

アラーム閾値に到達すると、ロードセルのディスプレイにはアラームが赤で表示され、ピープ音が鳴ります。



下限アラームが設定されており  
その閾値を超えた場合の例

アラーム保持機能が設定されて閾値を超えた場合、アラーム条件が閾値内に戻ってもアラームは継続します。  
これを消去するには、右下にある[Stop(停止)]通信ボタンを押してください。

## 数式を利用した荷重値表示

ロードセルのデータ読み取り値を（前のページに示したとおり）直接使用する代わりに、ロードセルのデータ読み取り値を利用した数式を使用することができます。これは、変換係数を用いた個別指定単位が必要な場合や、複数のロードセルの合計値が必要な場合に便利です。

数式で使用するロードセルは、[123456]のように、シリアル番号を角括弧で囲んで直接入力することができます。または、ドロップダウンリストでロードセルのシリアル番号を基にロードセルを選択し、[Formula(数式)] ボタンをクリックして数式に転送することもできます。

例) トン単位のデータをポンド単位に変換する場合は、以下の数式を使用します。  
[111111]\*2204.62 ※ロードセルのシリアル番号は、角括弧で囲んで表示されます[111111]。

4台のロードセルの値を合計する場合は、以下の数式を使用します。  
[111111]+[123456]+[123411]+[123422]

数式パーサーは、以下のシンボルを認識します。

+	-	/	*	()	[xxxxxx]
---	---	---	---	----	----------

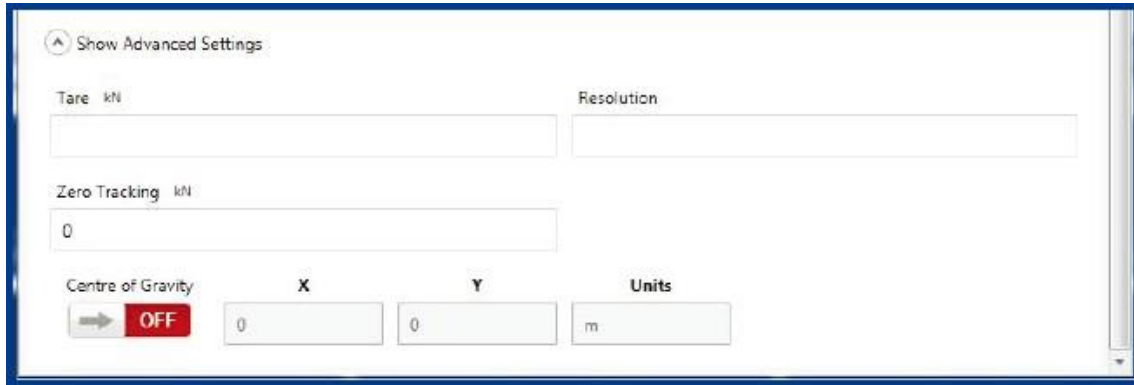
また、十進数も使用可能です。

数式パーサーは、最初にロードセルのシリアル番号を読み取る必要があります。そのため、  
2\*[123456] は受け付けられませんが、 [123456]\*2 は受け付けられます。それぞれの例を以下に示します。

受け付けられる数式の例	受け付けられない数式の例
[111111] + [234567] [111111]*2.5 [111111]+2.0 ([111111]*2)+100 ([111111]*2204.62)/100 ([111111]*2)/(2*[222222])	2*[111111] (2*[111111]) (2*6)

## 高度な設定

Edit Project Loadcell(プロジェクトロードセルの編集)画面の最下部にある[Show Advanced Settings (高度な設定を表示)] タブをクリックすると、下図の設定画面が展開されます。



### ●風袋設定 (Tare)

シャックルなどの重量を補正する場合は、ここに値を入力します  
この値は、すべての正味値または総計値から差し引かれます

### ●最小単位 (Resolution)

最小単位はデータ値が取る「刻み幅」を示します  
(例えば「0.02」に設定すると、値は1.02、1.04、1.06と表示されます)

これはロードセルから読み込まれ、起動時に設定されます  
この値はWLLに基づき決定されるため、通常は変更する必要がありません  
複数のロードセルのデータを異なる最小単位で表示する場合は、  
他のロードセルに合わせて最小単位を調整できます。

これによりデータ値に表示される小数点以下の桁数が自動的に設定されます

### ●ゼロトラッキング機能 (Zero Tracking)

設定した閾値を下回った場合にデータ値を0と表示させます  
これはロードセルから読み込まれ、起動時に設定されます  
したがって通常は変更する必要がありませんが、必要に応じて変更可能です

### ●重心 (Center of Gravity)

ロードセルの位置をX座標、Y座標で設定します  
後述の重心レポート機能の利用にはこの設定が必要です

X及びY座標の一般的な設定としては、  
1つのロードセルを基準点として(X, Y)=(0, 0)と入力し、  
その他のロードセルは基準点からの相対距離を入力していく方法があります

座標の単位(Units)はメートル、フィートなどお好みで決められます

ロードセルに関連する全ての設定が完了したら、[Save(保存)]ボタンを押してプロジェクトを保存してください。



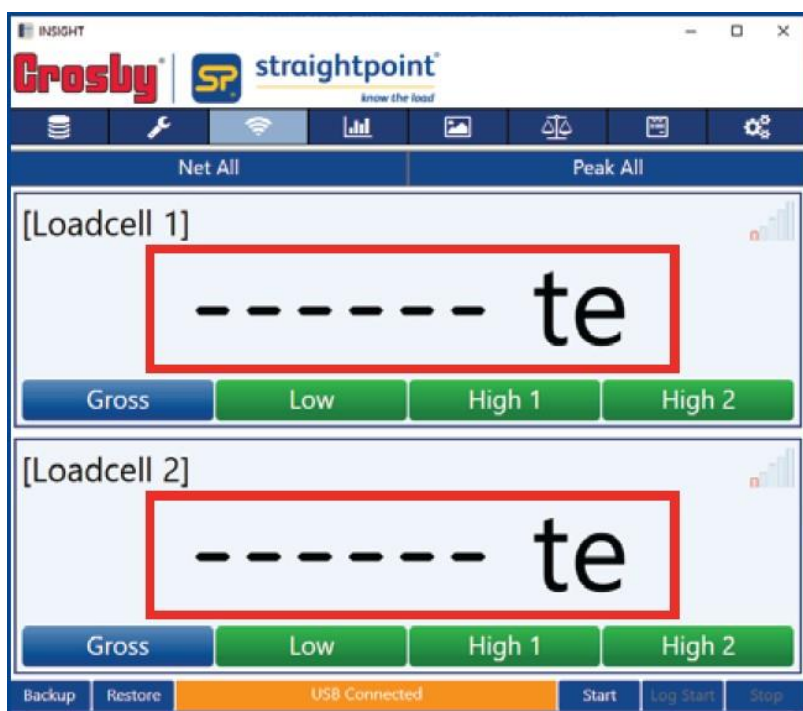
## ロードセルのデータ表示

プロジェクト設定及びロードセルの割り当てが完了すると、いよいよINSIGHTでのデータ計測機能が利用できます。




操作画面上部のディスプレイ  
アイコンをクリックしてください

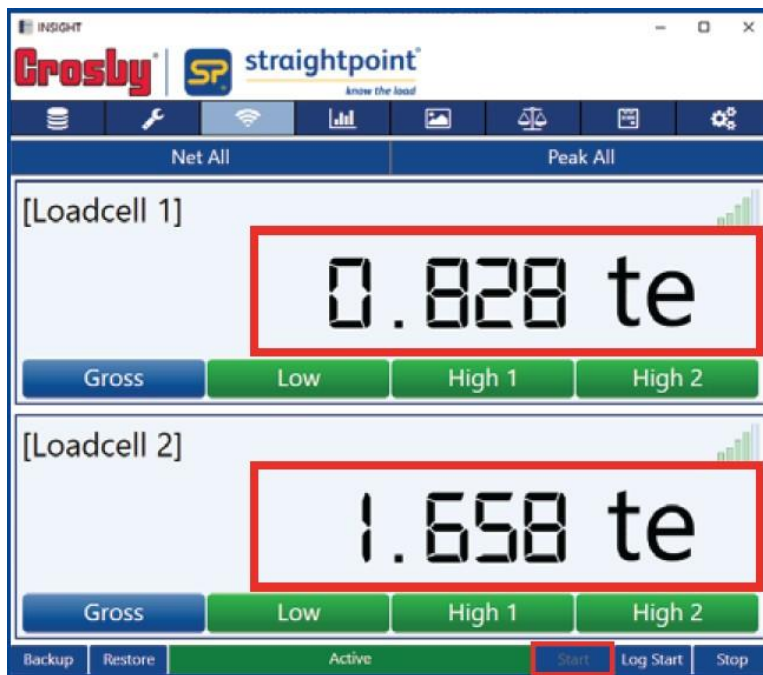
プロジェクトに関連付けたロードセルが表示されます。下図はロードセル2台が割り当てられた場合の表示画面です。  
画面にはロードセルごとに個別のエントリーが表示され、それぞれに説明(Description)入力項目とデータ値が表示されます。



この段階では、データ読み取り値  
の取得プロセスがまだ開始されて  
いないため、空白になっています  
(下図赤枠)

データ読み取り値の取得プロセスを開始するには、右下隅の [Start(開始)] ボタン  (下図赤枠) をクリックしてください。下図のようにロードセルからの計測値が表示されます。

既存のプロジェクトは、プロジェクト設定ページにある [Projects(プロジェクト)] から選択できます。同じ手順に従い、データ取得プロセスを開始してください。



スタートボタンを押してロードセルとの通信が開始されると画面最下部のステータスバーが [Active] 状態(緑色)になります。

各ロードセルボックス内に表示されているアイコンは以下の通りです。



#### グロス値(総計、総重量)

現在の表示されているデータ値がグロス値であることを表します  
この表示を切り替える場合は、このボタンをクリックしてください



#### ネット値(正味、正味量)

現在の表示されているデータ値がネット値であることを表します  
この表示を切り替える場合は、このボタンをクリックしてください



#### アラーム

「Low(下限)」「High 1(上限1)」「High 2(上限2)」アラームが表示されます  
計測値がアラーム閾値に達すると該当するアイコンが赤色に変わります

## ロードセル関連の表示アイコン

各ロードセルボックス表示されるアイコンは他にも次のようなものがあります。

ロードセルのデータ読み取り値を表示する場合は、右下隅の[Start(開始)]ボタンをクリックしてください。



### 無線信号レベル

無線信号レベルは5本のバーで表示され、データ読み取り値の表示時は塗りつぶされます

## OVERLOAD

### 過荷重の警告

ロードセルの値がプロジェクト設定パラメーターの過荷重率フィールドに入力した値を超えた場合、表示中の読み取り値に代わって、このテキストが表示されます



### ロードセルのエラー

ロードセルが内部のmV/V値を超えたことを示します  
このアイコンが消えない場合は、ロードセルを修理する必要があります



### 過荷重エラー

ロードセルがそのWLL(使用荷重)を10%以上超えた場合に表示されます  
ひずみゲージの部品が損傷している可能性があるため、再校正する必要があります  
これはロードセルが再校正されるまで表示され続けます



### ロードセルのバッテリー容量低下

これは一時的に表示される警告で、新しいバッテリーをロードセルに挿入すると消えます



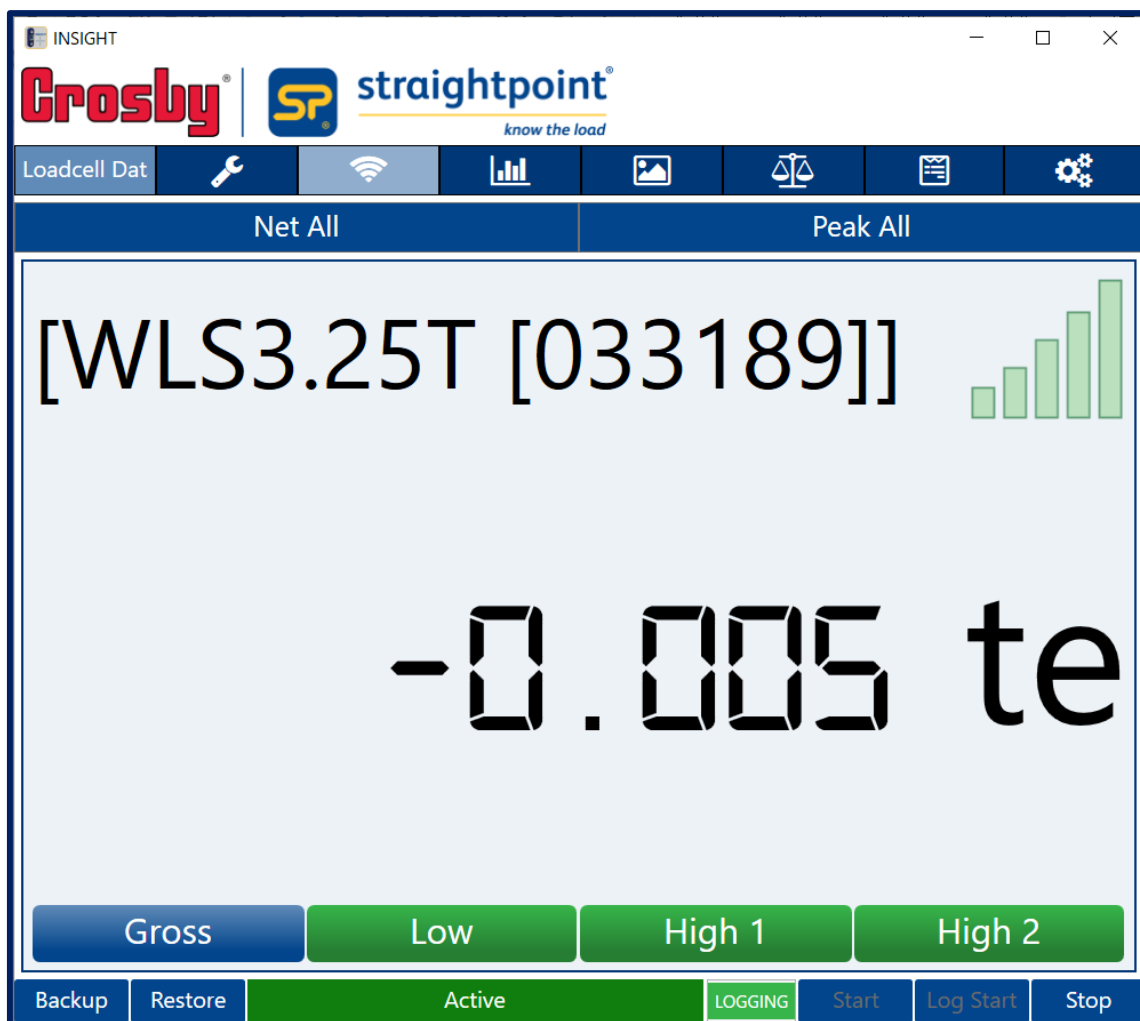
### 校正期限超過の警告

ロードセルがストレートポイント社で校正されてから約1年が経過しており、校正が必要です。これはロードセルが再校正されるまで表示され続けます

## データロギング

ロードセルとの通信中に、[Log Start (ログ開始)]ボタンをクリックすると、ロギングを開始できます。

※[Start (開始)]ボタンを押して(またはロードセルがスキャン実施中に)ロードセルからデータを読み込んでいるときは、標準メニューオプションの多くを使用することができません。メニュー項目へのアクセスを許可するには、スキャンまたは通信を停止する必要があります。



## ログデータファイルの形式

ログデータファイルが作成され指定されたロギングディレクトリー内に下記形式に従ったファイル名で保存されます。

Insight.20YY-MM-DDTHH-MM-SS.csv

このファイル名形式は、地域の日時の表記形式とは関係なく守られます。

例) Insight.2019-04-25T10-48-38.csv は、2019年4月25日の午前10時48分38秒に作成されたことを示します。ファイル形式は標準のコンマ区切り(CSV)形式で保存され、お好みのスプレッドシート内で読み取ることができます。日時と、その後ろにロードセルのシリアル番号を表示したヘッダー行が1行含まれます。

例)

日付	時刻	経過時間(ミリ秒)	123411	333333
2019-07-02	11:31:53	5000	14.580	16.088
2019-07-02	11:31:58	10000	14.580	16.089
2019-07-02	11:32:03	15000	14.580	16.088
2019-07-02	11:32:08	20000	14.580	16.090
2019-07-02	11:32:13	25000	14.577	16.086
2019-07-02	11:32:18	30000	14.577	16.089
2019-07-02	11:32:23	35000	14.576	16.089
2019-07-02	11:32:28	40000	14.578	16.087

## バックアップ・復元機能

INSIGHTには、バックアップ・復元機能を使用してプロジェクトと設定を保存する機能が備わっています。



バックアップ機能は、不注意によるプロジェクトデータの削除を防ぐために、必ず定期的に使用してください。左下隅にある[Backup(バックアップ)]ボタンを選択してINSIGHTデータを保存すると、状態がconfiguration.xmlというファイルに保存されます。このファイルは、既定でINSIGHTディレクトリーに格納されます。プロジェクトと状態は、[Restore(復元)]ボタンを使用していつでも復元できます。[Restore(復元)]ボタンのもう1つのオプション機能としては、既製のプロジェクトとストレートポイント社が提供する。ロードセルの詳細をインストールする機能が挙げられます。

## ロードセルチャート

INSIGHTでは各ロードセルの計測データの推移をグラフ化して表示させることができます。



操作画面上部のディスプレイアイコン④をクリックしてください

このグラフでは、最新のデータが絶えず更新されて表示されます。

画面の下にはシャドーグラフが表示され、グラフ作成の全期間が表示されます。これには、カーソルを表す長方形のシャドウブロックが重ねられています。これは、現在のメイングラフに表示されているデータの一部を示します。このカーソルを(マウスを使用して)左にドラッグすると、メイングラフの別のタイムラインのデータを表示できます。[Stop (停止)]ボタンをクリックすると最も効果的です。[Stop (停止)]ボタンをクリックしなければ、現在のタイムラインのグラフ表示に戻ります。

- チャートを開いたままにしておくには、チャートの[Stop (停止)]ボタンをクリックします。ただし、チャートに測定値が追加されないように必ず時間を固定してください。
- チャートを再起動するには、チャートの[Clear (消去)]をクリックして、画面上の両方のグラフを消去します。
- チャート作成を再開するには、[Record (記録)] ボタンをクリックします。
- タイムラインの横の尺度を拡大または縮小するには、マウスのスクロールホイールを使用します。
- チャートの別の位置を表示するには、マウスのカーソルをクリックしたまま左右にドラッグします。
- [Max History (最大履歴)]フィールドには、バッファが上書きされるまでに保存される読み取り値の数(表示されるグラフのサイズ)が表示されます。
- 記録の [Interval (周期)] は、データ読み取り値を累積して表示を更新する周期です。
- ロードセルの説明の横にあるチェックボックスをクリックすると、そのロードセルをグラフから削除できます。

## データの視覚表現

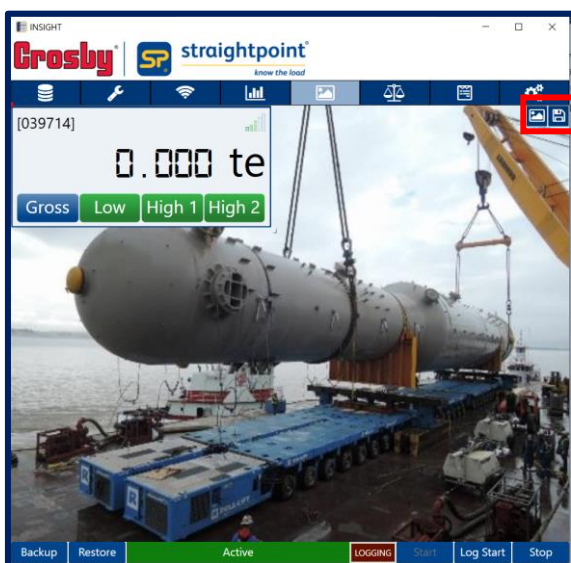
視覚表現機能ではリアルタイムの計測データとともに現場画像を背景に表示させ、ロードセル位置を可視化できます。



操作画面上部のディスプレイアイコン⑤をクリックしてください



最初の画面では各ロードセルのデータ読取値のボックスが左上隅に重なった状態で配置されています



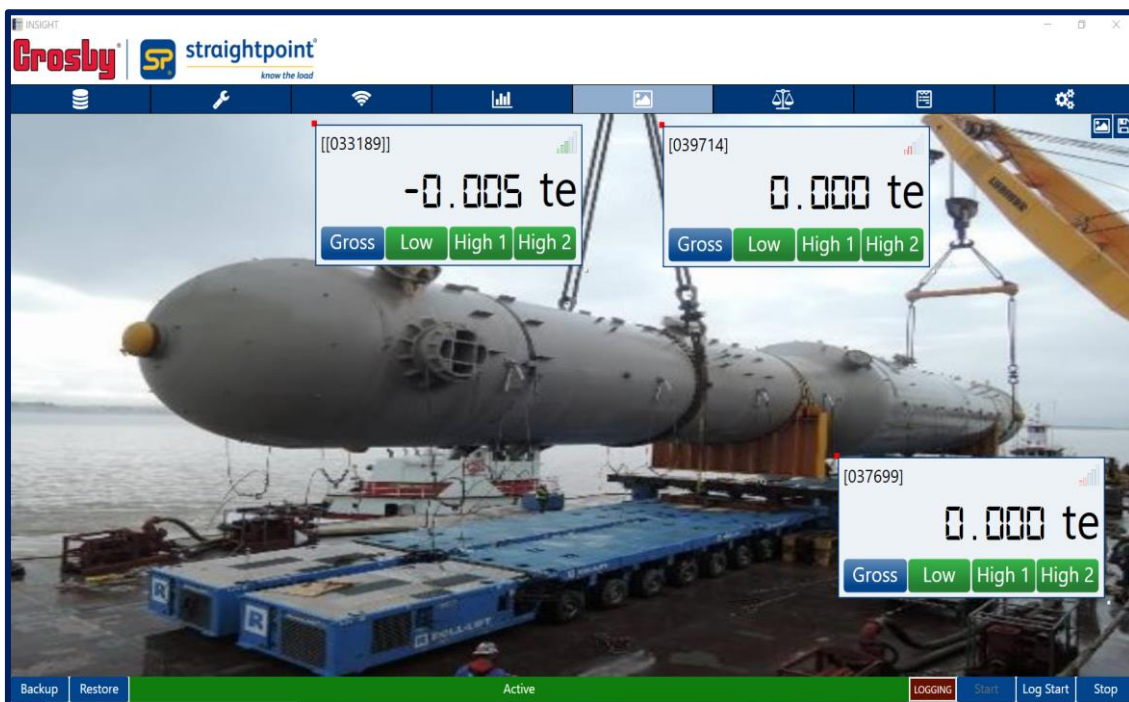
画像の挿入は、右上隅の[Load Image (画像読み込み)]ボタン(左図赤枠)をクリックします



下図の様に、各ロードセルの読取值ボックスを取り付け位置付近に配置します。

ボックスはマウスでドラッグして自由に移動させることができます。

一番上のボックスを移動させると他のボックスが現れます。



画像の挿入及び、各ロードセル読取值ボックスの配置が完了したら、右上隅の[Save (保存)]ボタン(右のアイコンを参照)をクリックします。

注記:

[Save (保存)]を選択するとデータ読取が自動的に停止します。

データ読取を再開する場合には[Start]ボタンをクリックしてください。

## 重心(COG)測定

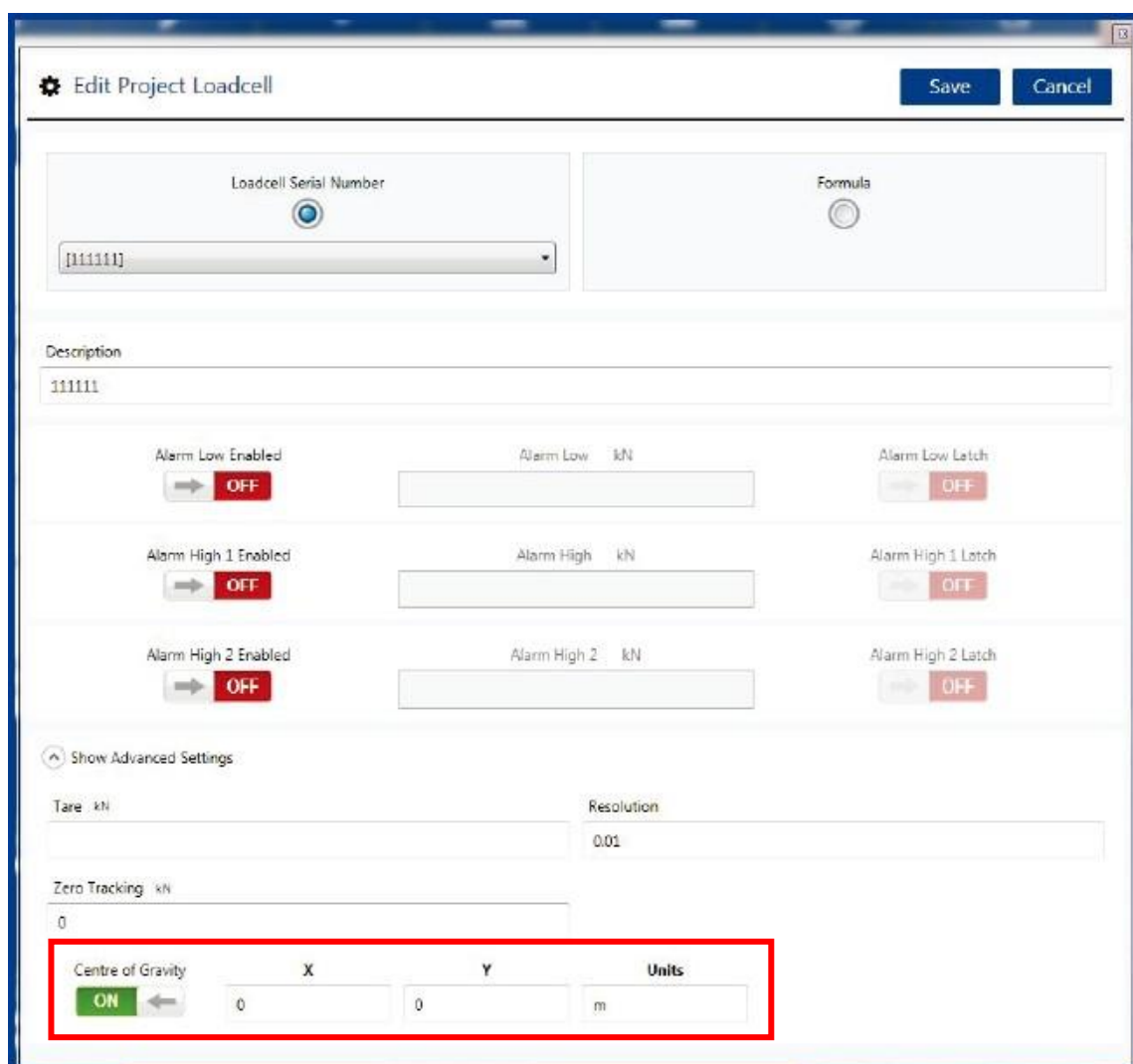
INSIGHTにはロードセルに位置情報を割り当てることで、各ロードセルの計測値、位置情報及び吊り荷の重心位置をリアルタイムで表示でき、また測定結果をもとに重心レポートを生成する機能が備わっています。

ロードセルの位置を入力するには、次の2つの方法があります。

1. 任意の固定点からのメートル値を指定するなど、局所相対座標を使用する。
2. UTM座標系で使用されているグローバルな座標を使用する。

COGプロジェクトにロードセルを使用するには、まず、[Edit Project(プロジェクトの編集)]ロードセルメニュー内の[Advanced Settings(高度な設定)]セクションでその位置のX座標とY座標を指定する必要があります。

COG機能を有効化し、ロードセルの位置座標を入力してください。局所座標でも大域座標でも入力することができますが、局所座標を入力する場合は、[Units(単位)]フィールドも併せて入力してください。

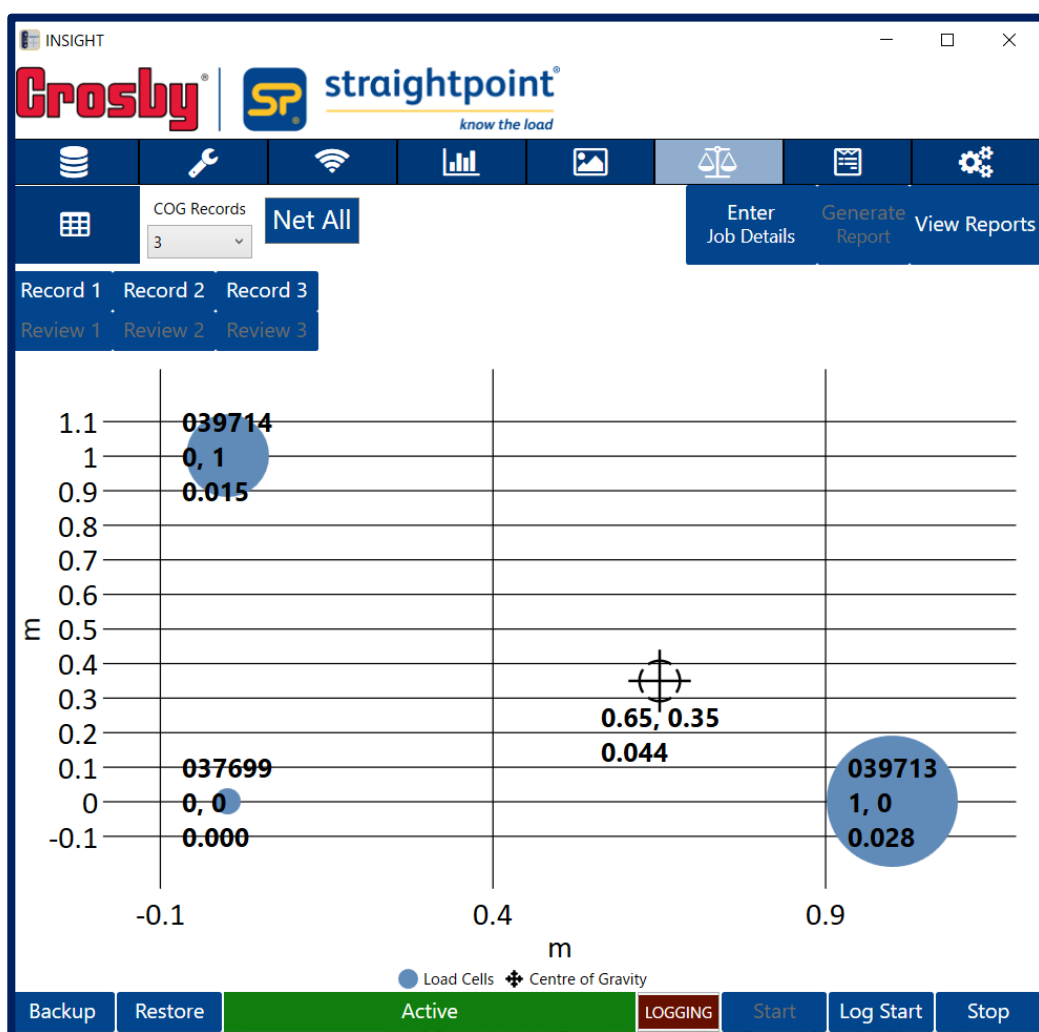


The screenshot shows the 'Edit Project Loadcell' window. The 'Loadcell Serial Number' is set to '111111'. The 'Description' is '111111'. The 'Alarm Low Enabled' and 'Alarm High 1 Enabled' are both 'OFF'. The 'Alarm Low Latch' and 'Alarm High 1 Latch' are both 'OFF'. The 'Alarm High 2 Enabled' is 'OFF'. The 'Alarm High 2 Latch' is 'OFF'. The 'Show Advanced Settings' section is expanded, showing 'Tare kN' as 0, 'Resolution' as 0.01, and 'Zero Tracking kN' as 0. The 'Centre of Gravity' section is highlighted with a red box, showing 'ON' for the status, '0' for X, '0' for Y, and 'm' for Units.


各ロードセルの位置情報をすべて入力したら、重心測定(COG)画面に移動してください。



操作画面上部のディスプレイアイコン⑦をクリックしてください



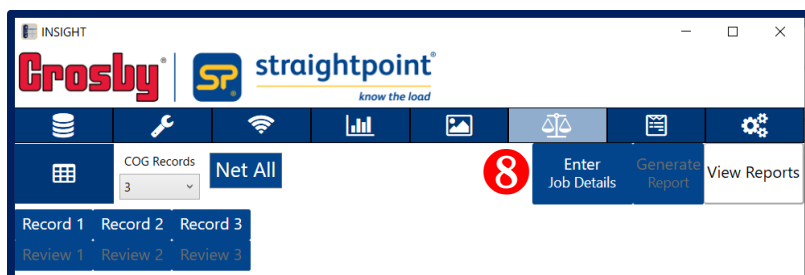
[Start(開始)]ボタンをクリックしてデータ読取値のキャプチャーを開始してください。

上記のように重心位置は  マークで中央に表示されます。各ロードセルのX,Y位置と荷重値は青い円の中に表示されます。青い円は荷重値の大きさに比例して大きくなります。画面上部の[Gross All(全てのロードセルを総重量表示)]ボタン、又は[Net All(全てのロードセルを正味重量表示)]ボタンはクリックで切替可能です。

## 重心(COG)測定(続き)

次に、重心(COG)レポートの作成方法を説明します。ジョブ詳細項目を入力して保存します。

ジョブ詳細を記入しなくても重心レポートは作成できますが、入力された項目はレポートのヘッダーとして表示されます。



操作画面右上部の“ジョブ詳細入力(Enter Job Details)”ボタン⑧をクリックしてください

ボタンをクリックするとジョブ詳細入力画面が表示されますので任意で入力してください。

Company	<input type="text"/>
Client	<input type="text"/>
Project	<input type="text"/>
Project Number	<input type="text"/>
Operator	<input type="text"/>
Wind Speed	<input type="text"/>
Wind Direction	<input type="text"/>
Temperature	<input type="text"/>
Notes 1	<input type="text"/>
Notes 2	<input type="text"/>
Save	

Company: 会社名

Client: お客様名

Project: プロジェクト名

Project Number: プロジェクト番号

Operator: 作業者

Wind Speed: 風速

Wind Direction: 風向

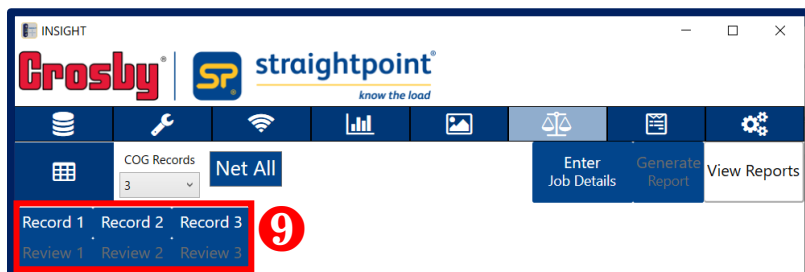
Temperature: 気温

Note1: 備考1

Note2: 備考2

詳細の入力が完了したら[Save(保存)]ボタンをクリックしてください。

次に荷重値及び重心位置の記録を行います。操作画面下部の[Start(スタート)]ボタンがクリックされた状態で、且つ重心位置が安定していることを確認したうえで、下記手順に従って記録を開始してください。

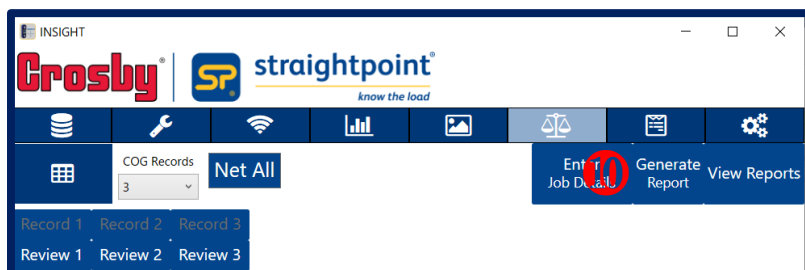


操作画面左部の[Record1～3(記録1～3)]”ボタン⑨を順番にクリックしてください

※既定は記録回数の設定は3回ですが、[COG Records(重心位置記録)]リストより1～10回に変更できます

記録が完了すると、[Review1～3(確認1～3)] ボタン⑨が有効になりクリックするとそれぞれ記録値が確認できます。記録値の削除、又は再実行が必要な場合はそこから操作できます。

最後に重心レポートの作成を行います。





操作画面右上部の[Generate Report(レポート作成)]”ボタン⑩をクリックしてください

※ボタンが有効になっていない場合、全ての記録が完了していませんので、完了後に再び操作を行ってください

## 重心(COG)測定(続き)

[Generate Report (レポート作成)] ボタンをクリックすると、画面が切り替わりHTMLレポートが表示されます。

**straightpoint® Martec K.K.**  
*know the load*

**WEIGHING RESULTS**  
*Project*

① ↓

Date:	Wednesday, 31 March 2021
Operator:	Nakato
Project:	COG Simulation
Project Number:	0001
Client:	Test
COG Units	Weight Units
m	kg
Environmental Conditions	
Temperature 18 degrees	Wind Speed none
	Wind Direction none

Coordinates

Cell Position	Cell Description	X	Y
1	039714	0	1
2	039713	1	0
3	037699	0	0

↔ ②

③ ↓

Cell Position	Description	Weighing 1	Weighing 2	Weighing 3	Weighing 4	Weighing 5	Weighing 6	Weighing 7	Weighing 8	Weighing 9	Weighing 10	Mean
1	039714	10	15	5	0	0	0	0	0	0	0	10
2	039713	16	15	17	0	0	0	0	0	0	0	16
3	037699	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
TOTALS		26	30	22	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	26

COG Result

	Weighing 1	Weighing 2	Weighing 3	④	Weighing 5	Weighing 6	Weighing 7	Weighing 8	Weighing 9	Weighing 10	Mean
COG X	0.61538	0.5	0.77273		N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	0.62937
COG Y	0.38462	0.5	0.22727		N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	0.37063

MEAN TOTAL WEIGHT:	26			Mean Centre of Gravity
Standard Deviation Weight:	4			COG X 0.62937
Standard Deviation in Percent:	15.38			COG Y 0.37063

Notes: ↑ ⑤

	Name	Signature	Date
Client Representative			
Customer Representative			

- ① ジョブ詳細情報: ジョブ詳細入力画面で記入した項目が表示されます
- ② ロードセル位置情報: プロジェクト設定で設定した各ロードセルのX,Y位置が表示されます
- ③ 荷重読取值: 各ロードセルの荷重読取值が表示されます
- ④ 重心位置読取值: 荷重読取時の重心がX,Y位置で表示されます
- ⑤ 荷重・重心平均値:

作成された重心レポートは、ロギングディレクトリーフォルダーに保存されます。フォルダーは操作画面右上の [View Report (レポートの表示)] ボタンをクリックして開くこともできます。

28

## レポート

レポート機能は、現在のロードセル画面の読取値を取得しプレーンテキストまたはHTML形式のレポートを作成できます。



操作画面上部のディスプレイアイコン⑥をクリックしてください

[Generate Report (レポート生成)] ボタンをクリックすると、ソフトウェアがテンプレートからレポートファイルを自動的に生成し、レポートファイルにプロジェクト名などを含むプロジェクトのデータを書き込みます。次に、レポートファイルがレポート出力ディレクトリーにエクスポートされ、ユーザーが確認できるようになります。

またこの機能を使用すると、トークンを含む独自のレポートテンプレートファイルを柔軟に作成して、独自仕様のレポートを作成することができます。レポートを作成するには、最低でもテンプレートファイルを編集または作成し、ロードセルのシリアル番号を記入する必要があります。

プレーンテキストまたはHTMLファイルで使えるトークンは次のとおりです。

トークン	内容
++PN++	プロジェクト名
++DT++	「2桁の日にち、月、2019」で示す現在の年月日
++TM++	時間:分:秒(すべて2桁)で示す現在時刻
++SD[xxxxxx]++	ロードセルの説明 [xxxxxx]
++SV[xxxxxx]++	ロードセルの現在のデータ値 [xxxxxx]

トークン化されたプレーンテキストファイルの例を以下に示します。

テキスト形式サンプルレポート	出力されるテキスト形式レポート
Project - ++PN++	Project - プロジェクト名
テキスト形式レポートサンプル	テキスト形式レポートサンプル
Date: ++DT++	Date: 29 April 2019
Time: ++TM++	Time: 16:39:05
Loadcell      Description      Value	Loadcell      Descript      Value
[123411]      ++SD[123411]++      ++SV[123411]++	[123411]      123411      23.36
[123422]      ++SD[123422]++      ++SV[123422]++	[123422]      123422      20.80



## レポート(続き)

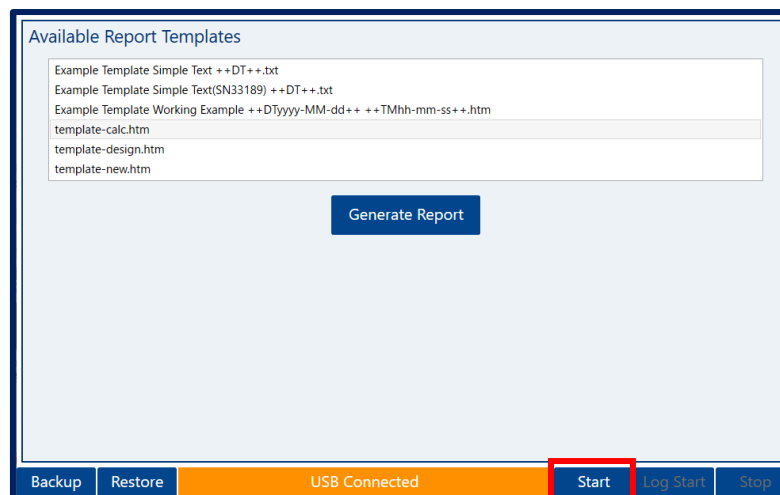
以下の手順に従い、レポートを作成してください。



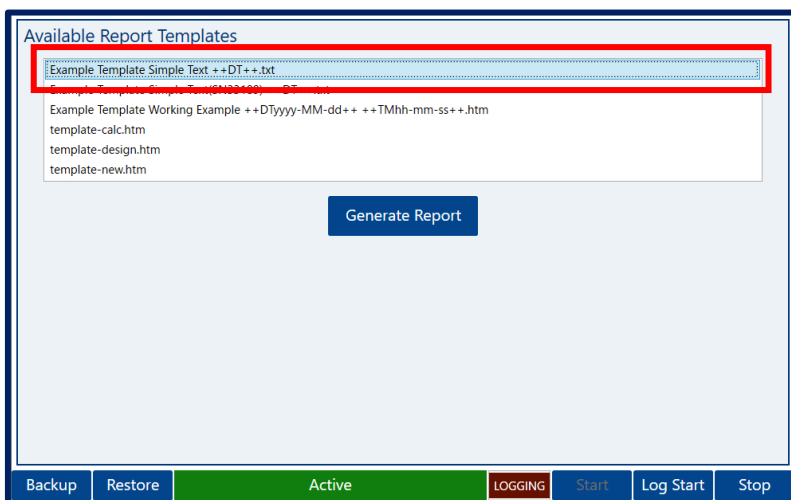
- ① [Report Template Directory](レポートテンプレートディレクトリー)を指定します。利用可能なレポートテンプレートが[Available Report Templates (使用可能レポートテンプレート)]ウィンドウに表示されます



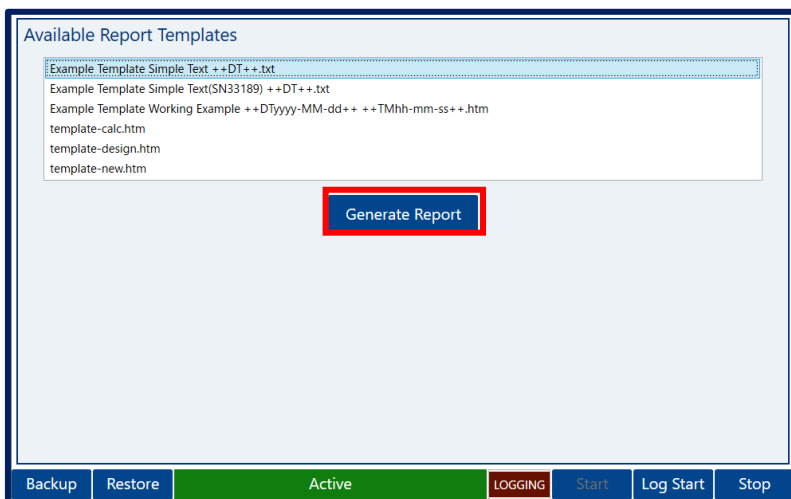
- ② [Report Output Directory](レポートアウトプットディレクトリー)を指定します。出力されたレポートが保存されるディレクトリーが表示されます



- ③ 画面の右下隅の[Start(開始)]ボタンをクリックして、データ読み取り値のキャプチャーを開始します。



- ④ レポートテンプレートウィンドウから使用したいテンプレートを選択してください(提供されたトークンを使用して作成したテンプレートも表示されます)。カーソルで、[Available Report Templates(使用可能レポートテンプレート)]ウィンドウ内のリストから使用したいテンプレートファイルをハイライトします。



- ⑤ [Generate Report(レポート生成)]ボタンをクリックすると、ポートが作成・表示されます。作成されたレポートは[Report Output Directory](レポートアウトプットディレクトリー)で指定したフォルダに保存されます

## ブルーテストプラス(PTP)

インサイトのブルーテストプラス機能を使えば、作業者が吊り荷から十分に距離を取った状態で非破壊試験検証またはブルーテスト試験を安全に実施することができます。

テストデータは試験証明書の形式で出力され、PDFレポートの印刷、又はレポートデータをメールで送信したり保存することができます。

代表的な用途は次の通りです。

- ウォーターバッグやブロックウェイトを使用してのクレーン性能試験
- パッドアイやフライポイント
- ガードレールや防護柵
- 建設(支柱やまぐさでの支保工等)
- 吊り天秤
- 油圧 シリンダーの負荷試験
- スリング、チェーン、ワイヤーロープ、フックなどの吊り具試験

### 機能

- 使いやすい操作画面
- 100%ワイヤレスで ケーブル破損が原因で起こる問題を解消
- 700m (2300 ft)の通信範囲により試験場所から安全な距離を保って操作できる
- 全てのストレートポイント製無線式ロードセル又はロードシャックルを使用可能
- 最大200Hzの速度でデータ読取が可能
- 試験合格/不合格証明書をデジタル署名で自動作成
- 試験中の負荷値をリアルタイムでグラフ表示
- 風速、海況なども記載できる自由入力フィールド



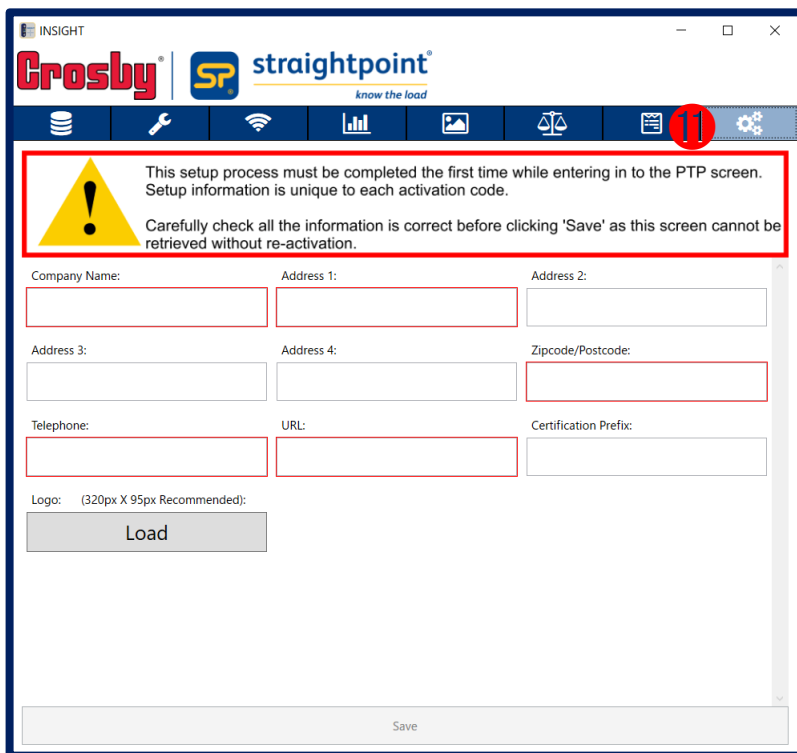
## ご注意

ストレートポイント製無線式ロードセルの取り扱い及び使用は、同梱されている取扱説明書に記載されている内容に沿って適切に行われるものとします。

ジャッキ、油圧シリンダー、チェーン、吊り治具、その他の荷役機器等と組み合わせて使用する場合には、各メーカー/サプライヤーから提供される情報および関連する全ての規制要件と業界基準や実施規則に従って、適切に取扱い、使用、確認及び点検されるものとします。

## 初期設定

PTP機能を使用するためには初期設定が必要となります。



11



操作画面上部のPTPアイコン  
⑪をクリックしてください



PTP機能を初めて使用する際にはこの初期設定が必要です。ここでの設定情報は各アクティベーションコード(PC)に固有で、一度設定すると後から追加・変更が出来ません。設定を保存する前に入力項目に間違いがないことを十分に確認してください。

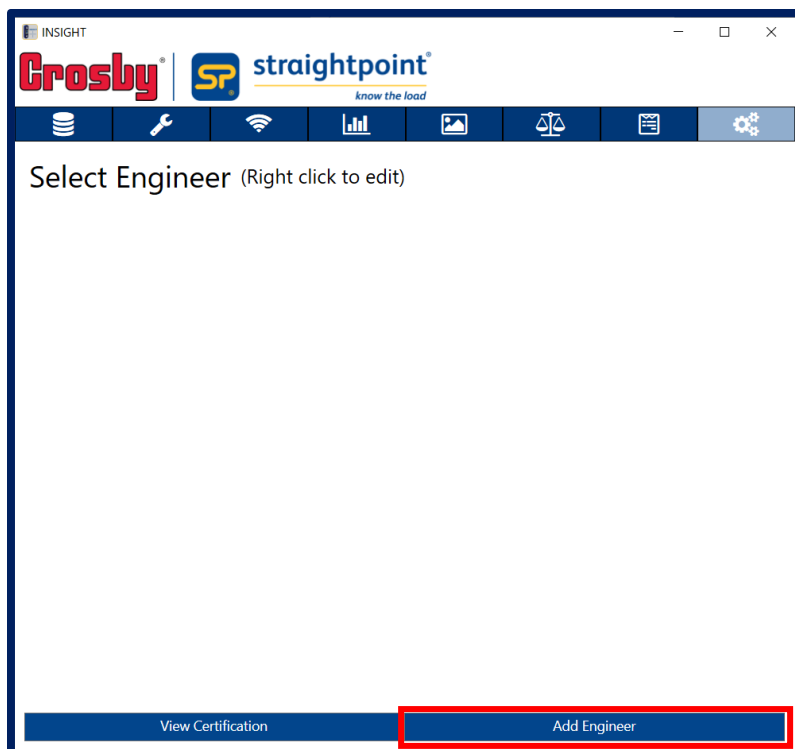
入力項目は以下の通りです。ここでの入力された情報はPTPレポートのヘッダーとして表示されます。

- Company Name … 会社名を記入してください(必須)
- Address1～4… 住所を記入してください(Address1は必須、その他は任意)
- Zipcode/Postcode… 郵便番号を記入してください(必須)
- Telephone… 電話番号を記入してください(必須)
- URL… 会社ウェブサイトのURLを記入してください(必須)
- Certification Prefix… 証明書発行番号の先頭につける3文字の英数字を記入してください(任意)  
番号はレポート作成時に自動で採番されます
- Logo… 会社ロゴのPNGファイルを[Load]ボタンからアップロードしてください(任意)  
画像の推奨サイズは 320x95 ピクセルです。

各項目の記入が完了したら[Save(保存)]をクリックします。

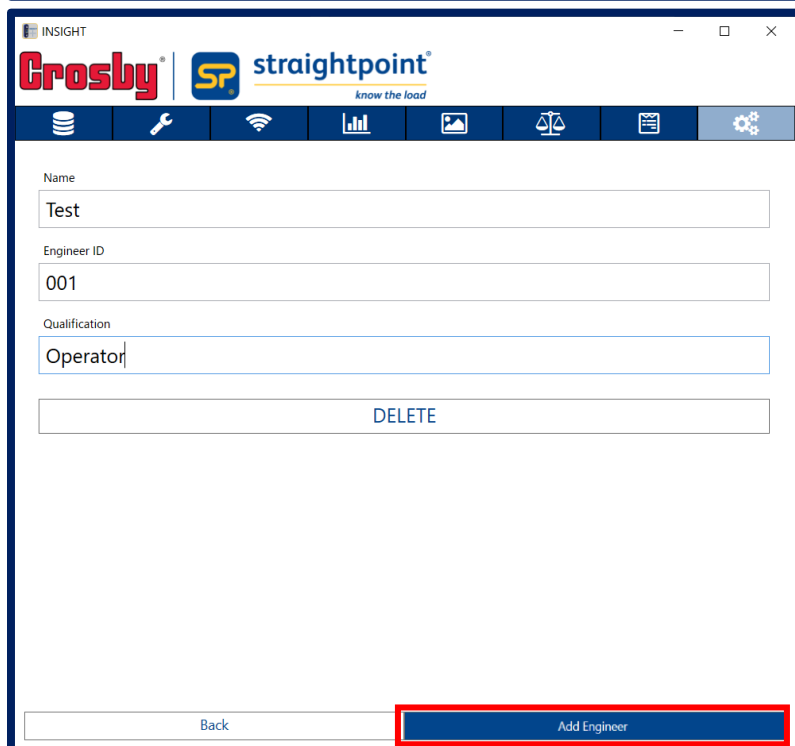
## エンジニア設定

初期設定を完了すると、次はエンジニア設定を行います。



エンジニア設定画面が表示されます。

[Add Engineer(エンジニアを追加)]ボタンをクリックしてください



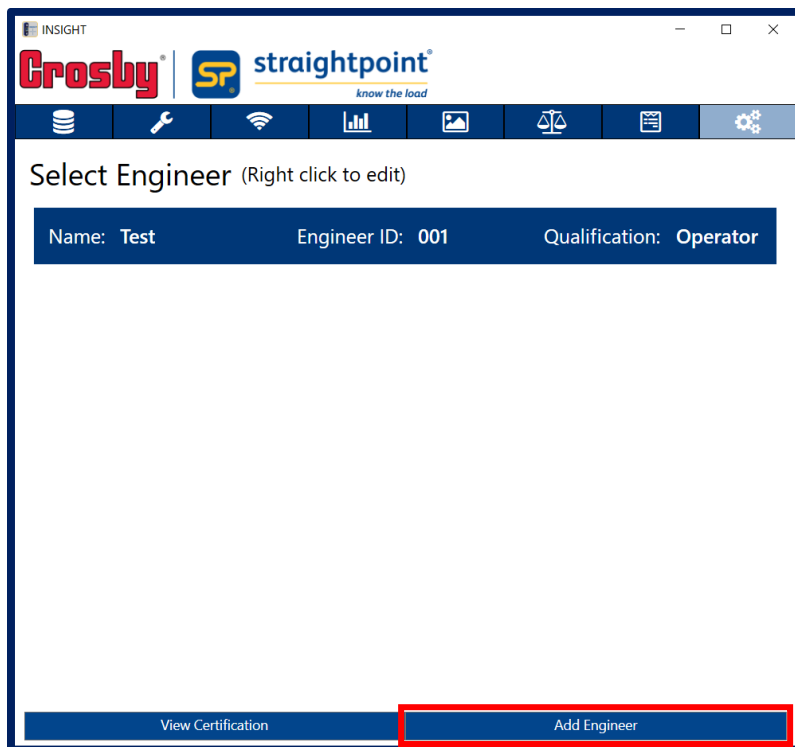
下記項目を入力してください

Name: エンジニア名

Engineer ID: 識別番号(任意)

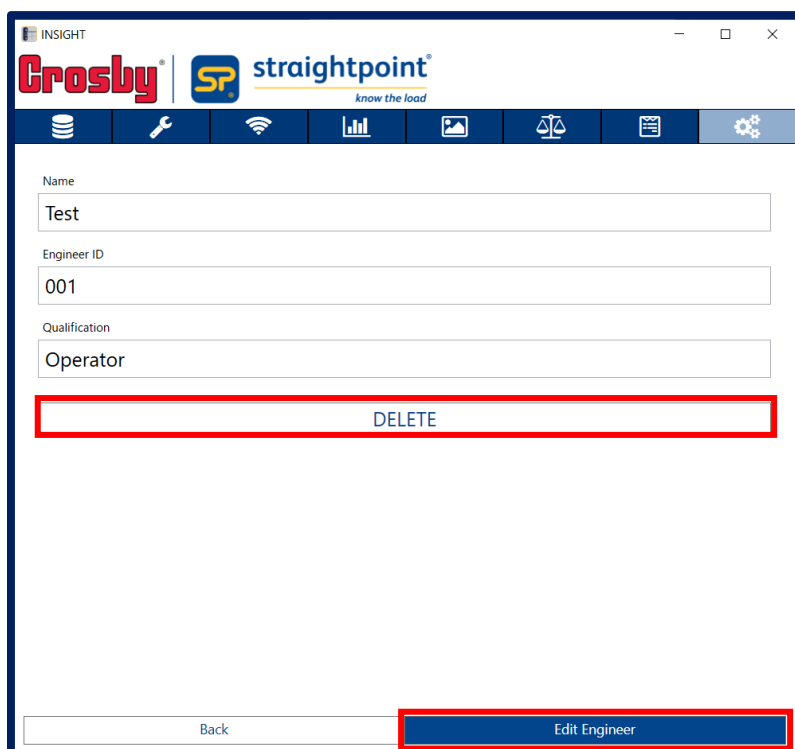
Qualification: 資格(任意)

入力が完了したら  
[Add Engineer(エンジニアを追加)]ボタンをクリックしてください



エンジニアが登録されました

エンジニアを追加したい場合は  
[Add Engineer(エンジニアを追加)]ボタンをクリックし、同様の操作を行ってください



エンジニア情報の編集、削除  
をする場合は、そのエンジニア  
名にカーソルを合わせて**右クリッ  
ク**してください

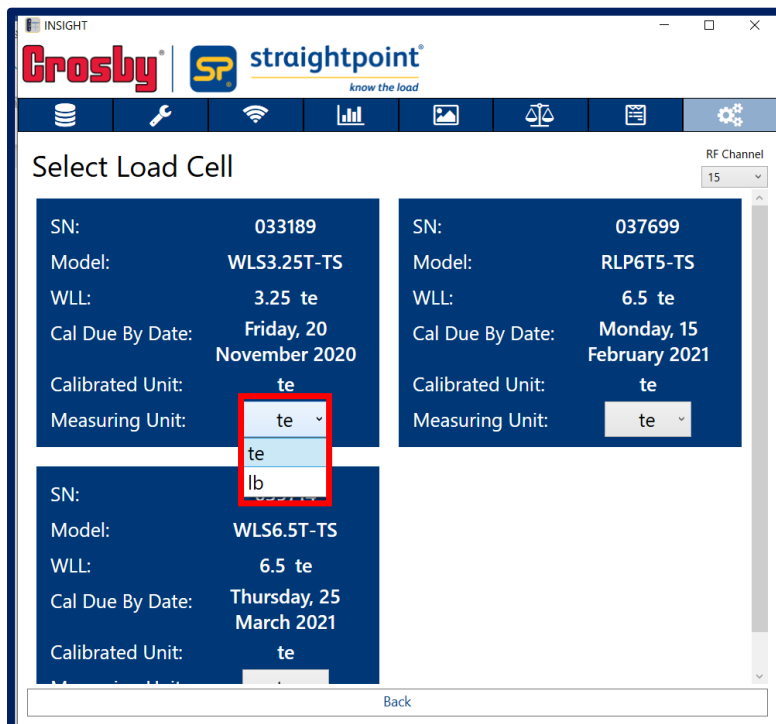
[DELETE(削除)]ボタン

[Edit Engineer(編集)]ボタン

試験の実施者となるエンジニアにカーソルを合わせて**左クリック**すると次の設定へ進みます。

## ロードセルの選択

エンジニアの設定が完了したら、次はロードセルを選択します。

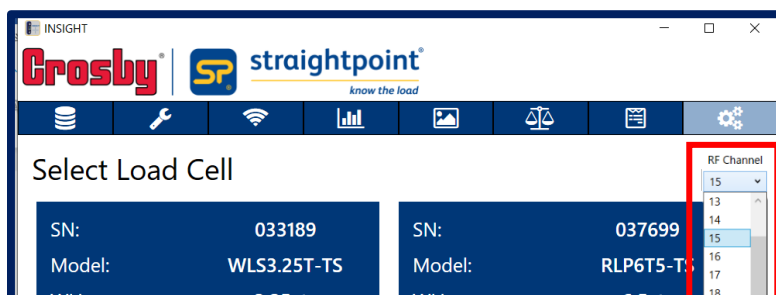


ロードセル一覧が表示されます  
試験に使用するロードセルを選択してください

この画面にはプロジェクトに追加されているロードセルのみが表示されます (P.10～18)

次に希望する測定単位を選択してください

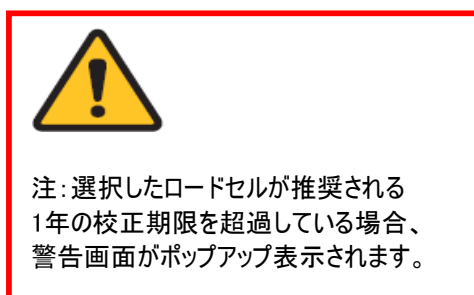
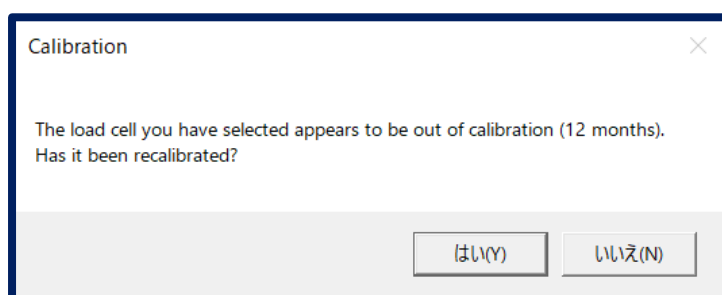
[Measuring Unit(測定単位)]タブからトンまたはポンドを選択できます



ロードセルの検索はRFチャンネルを選択して行うこともできます

既定のチャンネルは15 です

試験に使用するロードセルにカーソルを合わせて左クリックすると次の設定へ進みます。

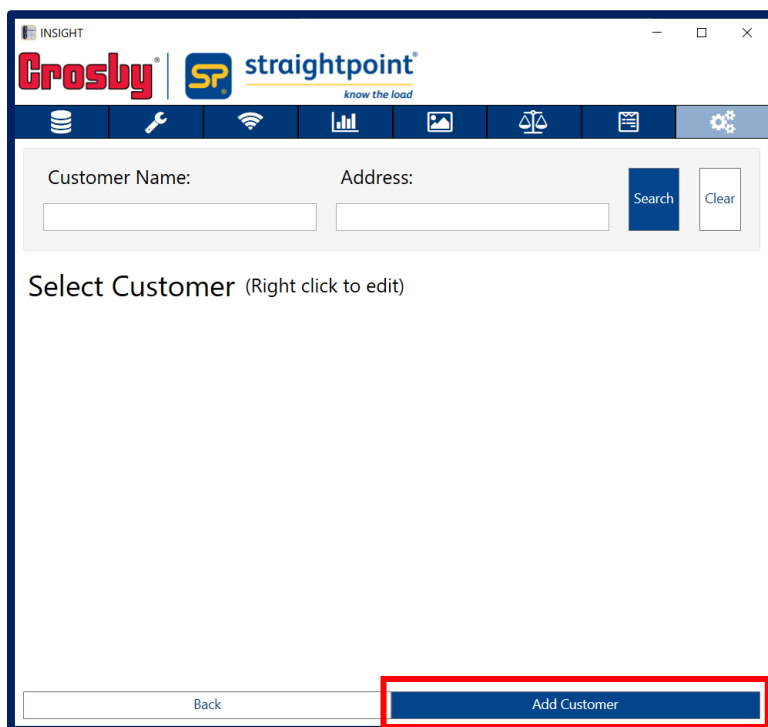
ロードセルが再校正されている場合は、[YES]ボタンをクリックして、新しい再校正日を入力してください。  
(この変更はローカルのみです。ロードセル本体の校正日変更については弊社までお問い合わせください)。

※ロードセルが再校正されていない場合でもブルーテストプラス機能を使って試験は実施できますが、最後に作成される試験証明書には、校正期間を超過したロードセルを使用してテストが実行されたことが記載されます。

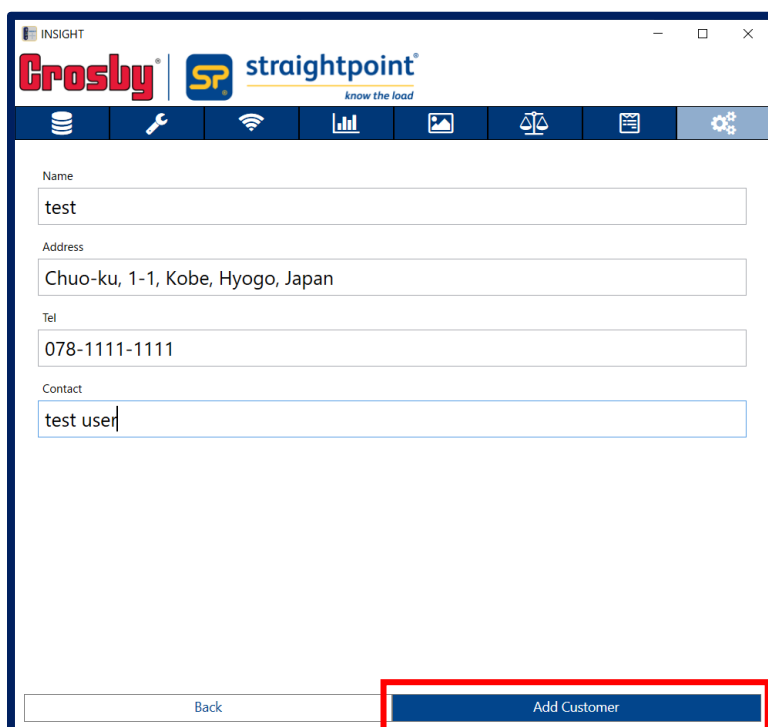


## 顧客設定

ロードセルの選択が完了したら、次は試験証明書を発行する顧客情報を登録します。



新たに顧客を登録するには[Add Customer(顧客を追加)]ボタンをクリックします。



下記項目を入力してください

Name: 顧客会社名

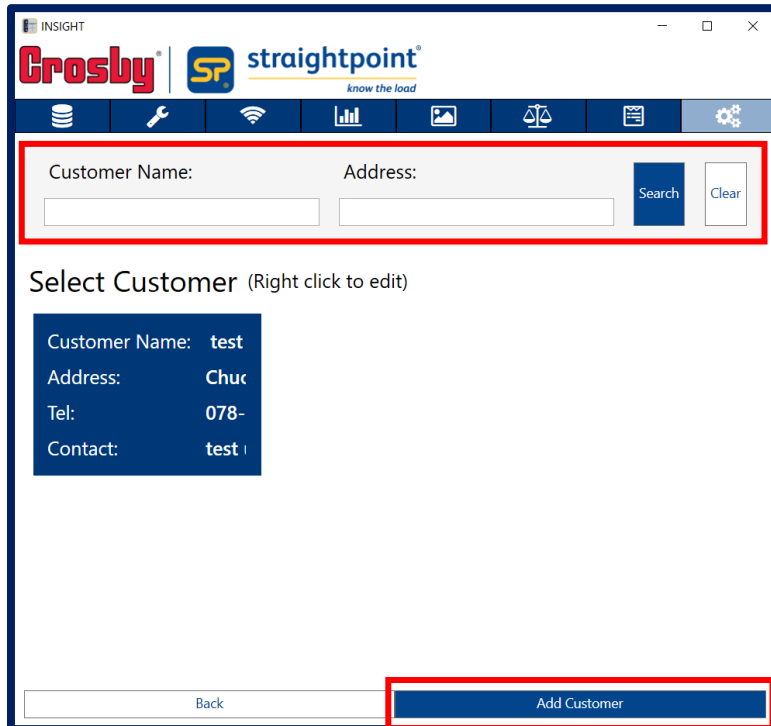
Address: 住所

Tel: 電話番号

Contact: 担当者名

入力が完了したら[Add customer(顧客追加)]ボタンをクリックしてください

## 顧客設定(続き)



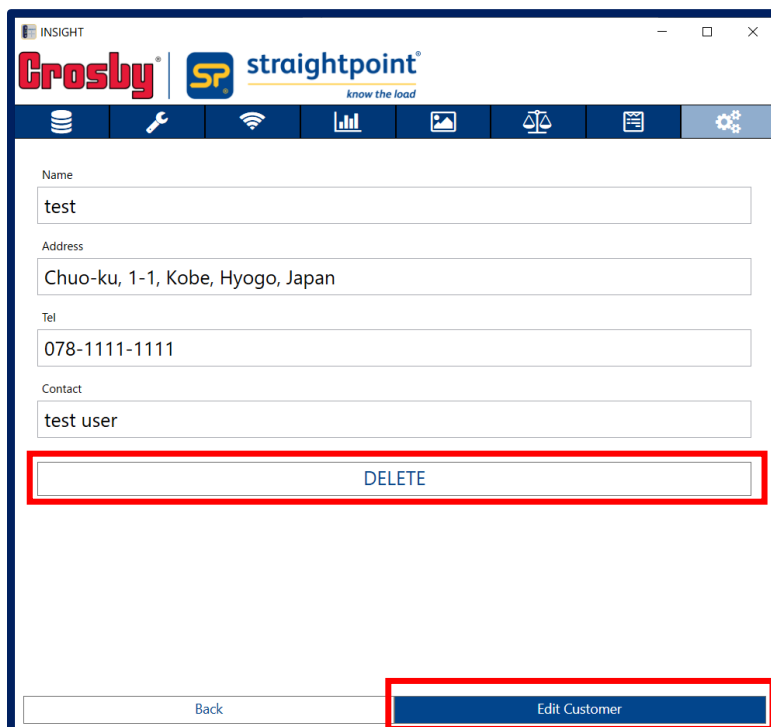
顧客が登録されました

顧客を追加したい場合は[Add Customer(顧客を追加)]ボタンをクリックし、同様の操作を行ってください

登録された顧客情報は画面に一覧となって表示されます

以前に登録された顧客の検索も行うことができます

画面上部のCustomer Name(顧客会社名)欄又はAddress(住所)欄を入力し[Search(検索)]ボタンをクリックすると検索を実行します



顧客情報の編集、削除をする場合は、その顧客名にカーソルを合わせて**右クリック**してください

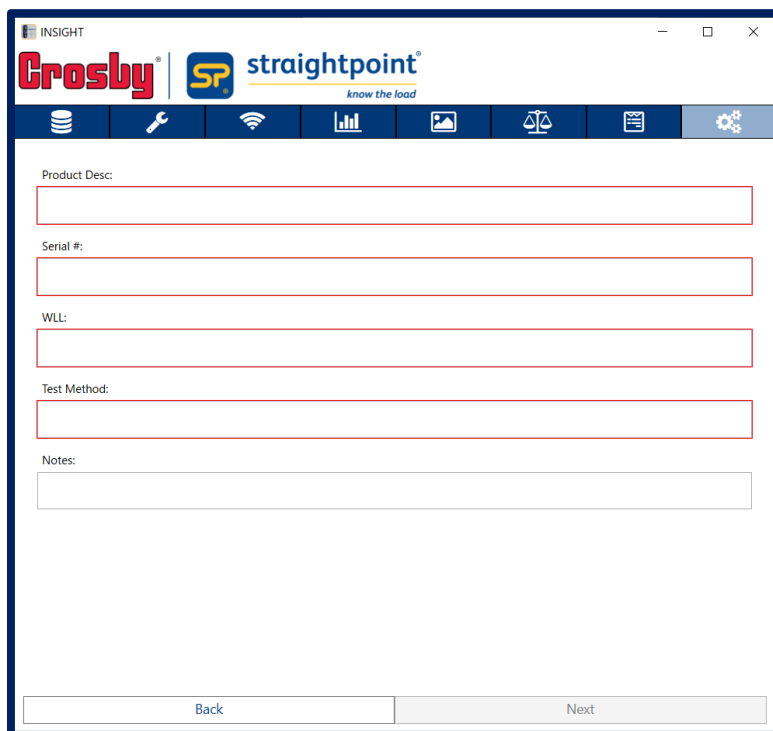
[DELETE(削除)]ボタン

[Edit Engineer(編集)]ボタン

試験成績書の提出先となる顧客にカーソルを合わせて**左クリック**すると次の設定へ進みます。

## 荷重テスト設定

顧客の設定が完了したら、これから行う試験の内容を登録します。



INSIGHT

Crosby | SP straightpoint<sup>®</sup> know the load

Product Desc:

Serial #:

WLL:

Test Method:

Notes:

Back Next

下記項目を入力してください

Product Desc: 製品情報

Serial Number: シリアル番号

WLL: 使用荷重

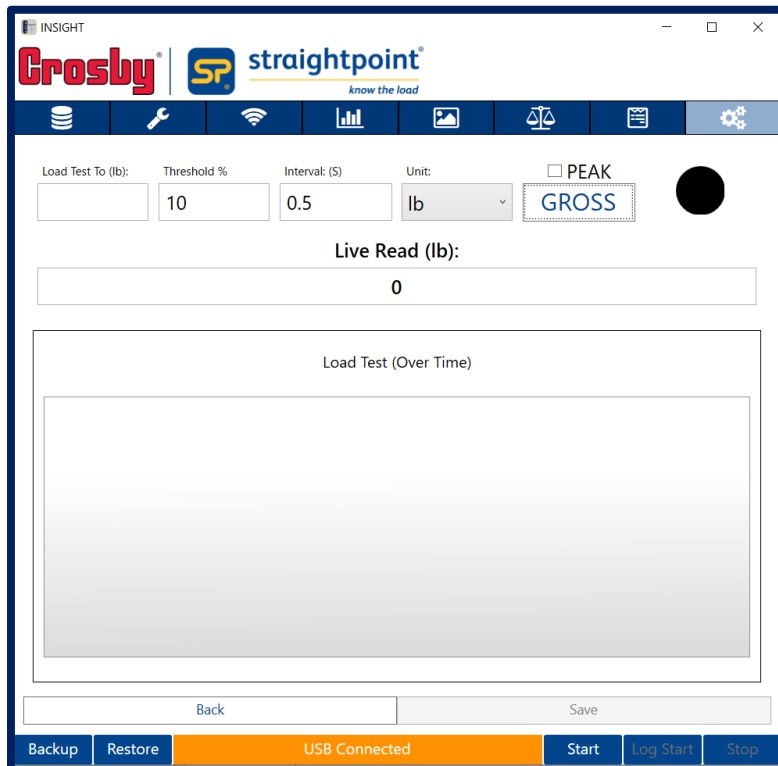
Test Method: ウォーターバグ、重り等

Note: 備考(任意)

試験内容の入力が完了したら[Next(次へ)]ボタンをクリックします。

## 荷重テストの実行

P.33～37の全ての設定が完了したら、いよいよ荷重テストを実行します。

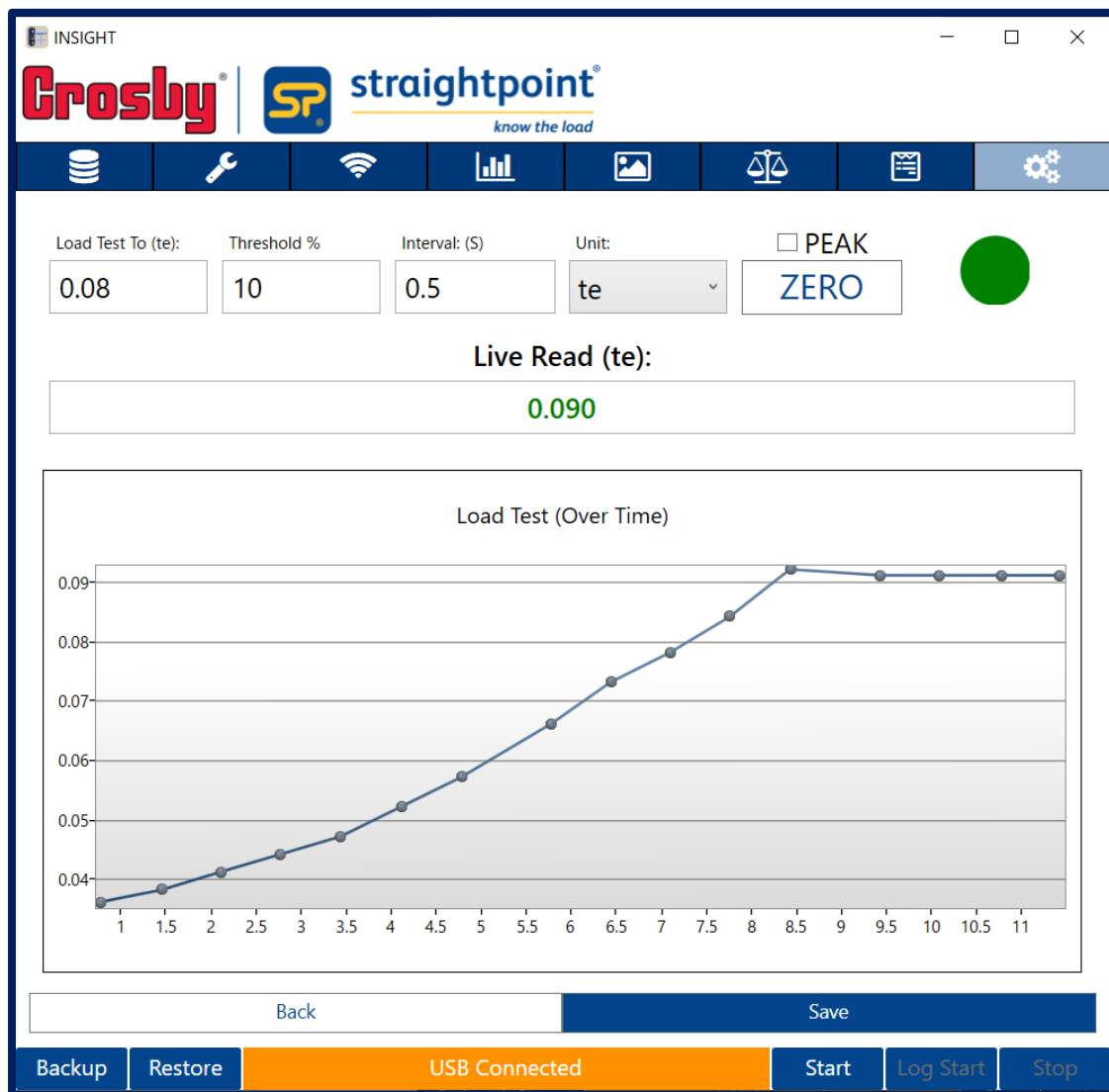


次の画面が表示されます  
画面右部のシグナルは●です  
画面下部のLoad Trendは  
空白で何も表示されません

荷重テストを開始する前に下記項目を入力してください。

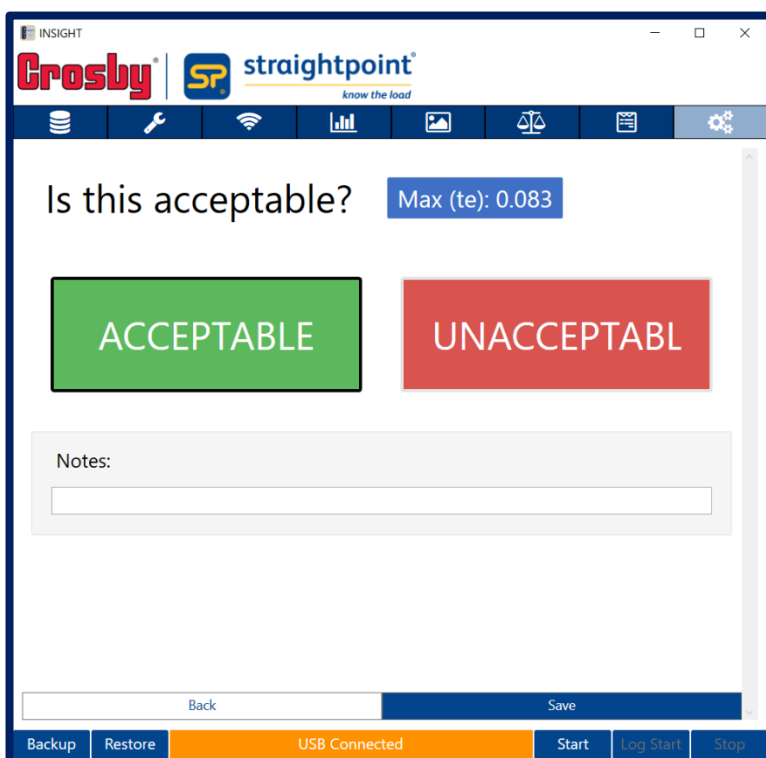
- **Load Test to:** テスト荷重をいくらまでかけるのか、その値を入力します。表示単位は[Unit(測定単位)]ボックスのドロップダウンからトン又はポンドに変更できます。
- **Start Threshold:** 測定開始閾値を入力します。既定値では10%に設定されていますが調整可能です。ここで設定した値からINSIGHTはデータロギングを開始します。
- **Read Interval:** 読み取り間隔を入力します。既定値では2回/秒に設定されていますが、最大 200回/秒まで調整できます。
- **PEAK:** ピークホールドを設定できます。[PEAK(ピークホールド)]チェックボックスをクリックしチェックを入れると、画面中の読取値(Live Read)とグラフには計測中の最大値のみが表示されます。チェックを外すと瞬時値が表示されます。
- **ZERO ボタン** 正味重量と総重量を切り替えます。ボタンに「ZERO」と表示されている場合、ライブ読取値(Live Read)ウィンドウとグラフには総重量が表示されます。「GROSS」と表示されている場合は正味重量が表示されます。

全てのデータを入力したら、画面下部の[Start(スタート)]ボタンをクリックしてテストを開始できます。

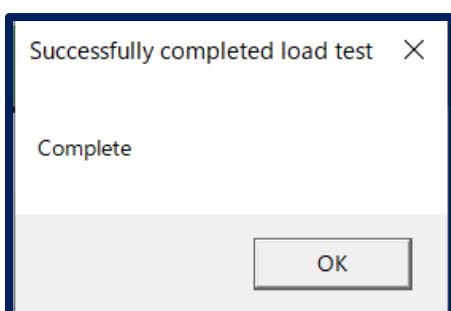


- ① ロードセルとの接続が正常に確立され、シグナルが●に変わったことを確認します。
- ② ロードセルに荷重をかけ、開始閾値に達しシグナルが●に変わったことを確認します。  
ここからテスト記録が開始されます。  
**※ロードセルに過負荷が掛かると、信号が●に変わりオーバーロードであることを示します。**
- ③ テスト中、荷重の瞬時値は[ライブ読取値(Live Read)]ウィンドウに表示され、また同時に荷重値の推移がグラフで表示されます。
- ④ [Load Test to]で設定した値まで達し荷重テストが終了したら、画面下部の[Stop(停止)]ボタンをクリックし、次に[Save(保存)]ボタンを押してテスト記録を保存してください。次ページの画面が表示されます。

## 荷重テストの実行(続き)



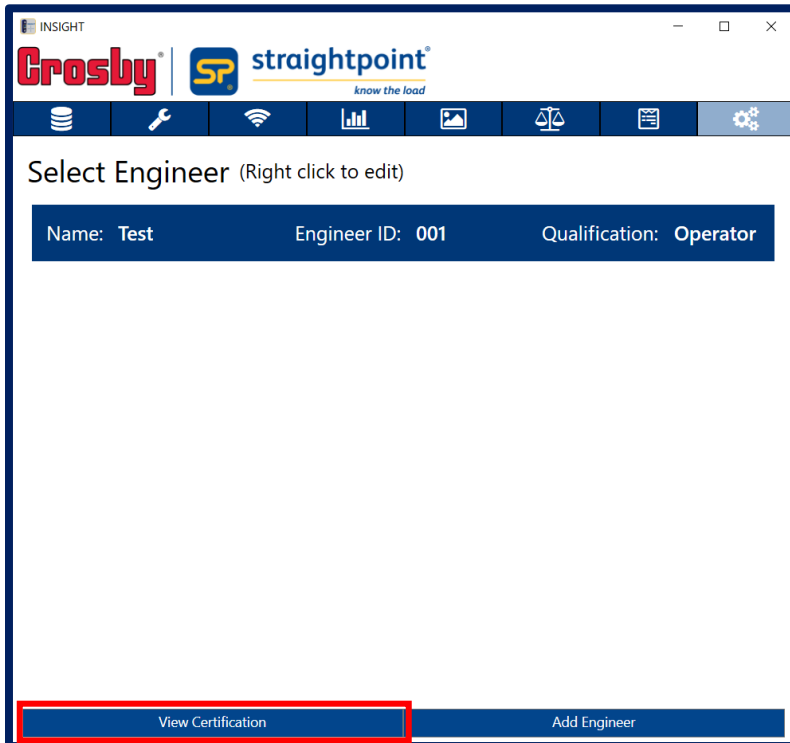
- ⑤ 実施した荷重テストが合格の場合は、**ACCEPTABLE** (合格)ボタンをクリックしてください。  
テストに関して備考を加えたい場合は画面下部の「Notes」(メモ)フィールドコメントを入力してください。
- ⑥ 次に **Save** をクリックしてください。
- ⑦ ポップアップが表示されたら[OK]をクリックしてください。クリック後はエンジニア設定画面(P.35)に戻ります
- ⑧ テスト結果が何らかの理由で不合格の場合は、**UNACCEPTABLE** (不合格)ボタンをクリックしてください。  
「Notes」(メモ)フィールドフィールドを使用して、テストの失敗の詳細などを入力できます。



- ⑨ メモ入力後、[Complete(完了)]、[OK]の順にクリックしてください。クリック後はエンジニア設定画面(P.35)に戻ります。

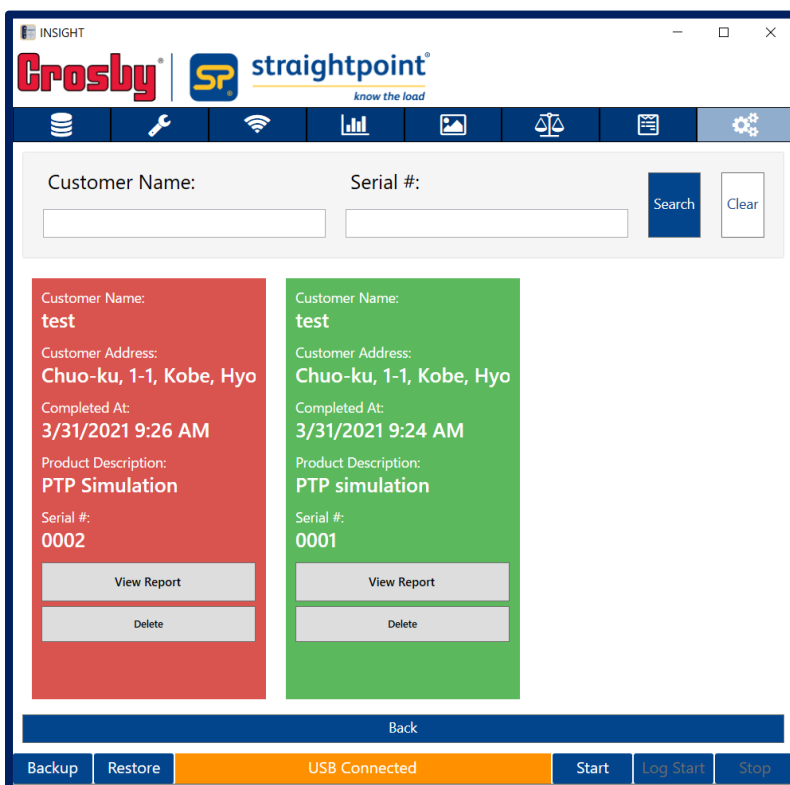
## 荷重テストレポート/証明書

荷重テストの合格/不合格を選択すると、エンジニア設定画面に戻ります。



テストレポートの確認はこの画面から行うことができます

[View Certification(証明書閲覧)]ボタンをクリックします



テストレポートの一覧が表示されますので、確認したいレポートを選択してください

緑色のレポートはテスト結果が合格したものを表します

赤色のレポートはテスト結果が不合格のものを表します


レポートは画面上部の [Customer Name(顧客名)], 又は [Serial シリアル番号] を入力して検索することもできます

[View Report(レポートの表示)]ボタンをクリックするとレポートが表示されます

[Delete(削除)]ボタンをクリックするとレポートを削除できます



# 荷重テストレポート/証明書(続き)



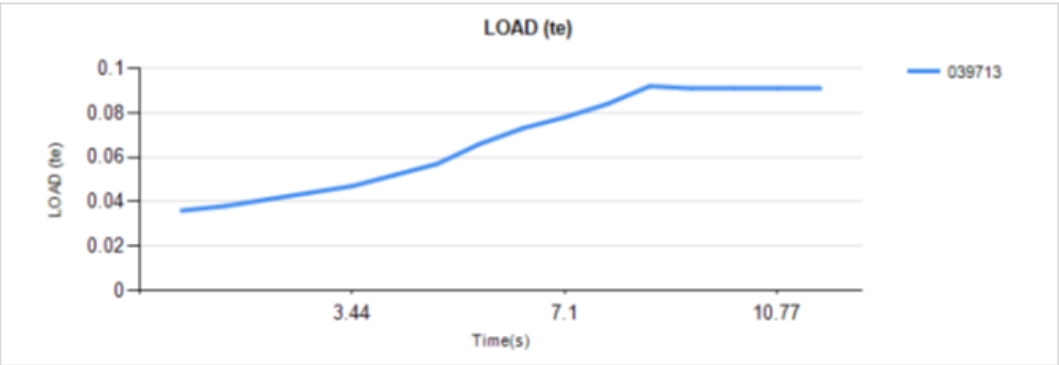
**MARTEC**  
マーテック株式会社

MARTEC K.K.  
Minatojima-Nakamachi 5-1-1  
Chuo-ku, Kobe  
Hyogo  
Japan  
650-0046  
+81-78-302-0460  
<http://www.martec.co.jp/>

**Certificate of Load Test - 31 March 2021 09:24:55**

Date of Test:	31 March 2021 09:24:55	Product Description:	PTP simulation
Certification Number:	MT-10001	Serial or Tag No:	0001
Company	test	WLL	1.0t
Address	Chuo-ku, 1-1, Kobe, Hyogo, Japan	Test Method	by hand
		Load Test To:	0.08te
Tel:	078-1111-1111	Duration of Test:	11.43 seconds
Contact	test user	Notes:	see how it works
Reference Loadcell:	WNI5TC-TS	Calibrated On:	Friday, 27 March 2020
Serial Number:	039713	WLL:	5
Calibrated Unit:	te	Measuring Unit:	te

**Peak Load: 0.092 te**



This is to certify that this product described herein has been subjected to the load test.  
Caution: Never exceed the rated capacities.

Notes:

Signed: *Test*

Appointed Person:	Test	ID: 001 Operator
-------------------	------	------------------

This proof test was carried out using a reference load cell that had exceeded the recommended recalibration interval (12 months).




**straightpoint®**

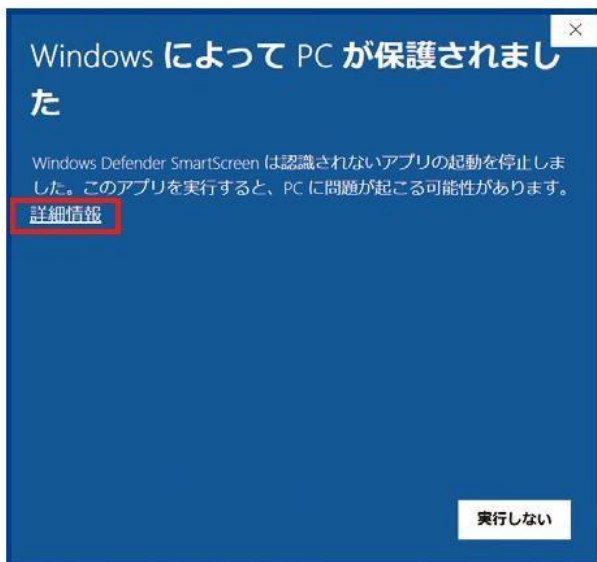
*know the load*

テストレポートは保存、印刷、電子メール送信、又はMicrosoft Excel やその他プログラムにエクスポートできます。

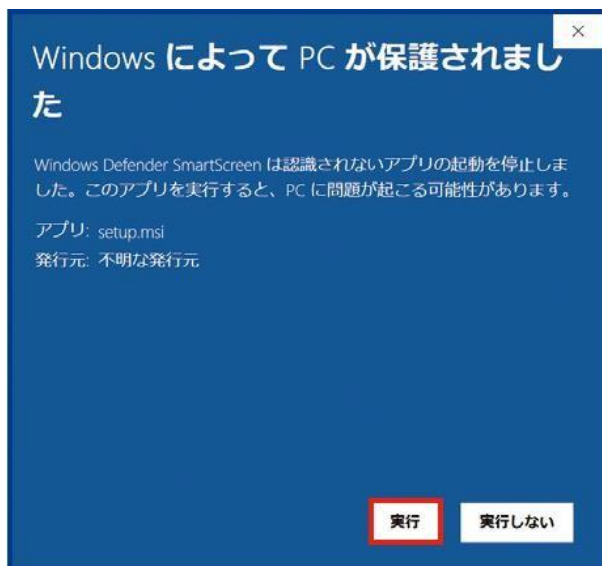
テスト結果が不合格のレポートの場合、荷重テストグラフは表示されません。代わりに失敗メモが(P.42)含まれます。

## 付録A Windows10へのソフトウェアのインストール

Windows 10 を搭載したコンピュータにINSIGHTソフトウェアをインストールしようとする、以下のポップアップウィンドウが表示されることがあります。



インストールを続行するには、[詳細情報]をクリックします。以下のテキスト表示ウィンドウが表示されます。



[実行]をクリックして、Windowsにインストールを続行するよう指示します。

## アイコン一覧

この項では、各アイコンが何を指しているかを簡単に説明します。



**INSIGHT**  
このアイコンをダブルクリックすると、プログラムが実行されます。



**アラーム**  
アラーム閾値に到達していません。



**ロードセルデータベース**  
既存のロードセルをデータベースに取り込みます。



**無線信号レベル**  
ロードセルの信号強度を示します。



**プロジェクト設定**  
プロジェクト設定を作成・編集する場合は、これをクリックします。



**ロードセルチャート**  
このグラフでは、最新時点のデータが絶えず更新されて表示されます。



**プロジェクト**  
既存のプロジェクトの一覧を表示します。



**画像の読み込み**  
データの視覚表現用の背景を作成するため、写真を読み込みます。



**アラーム**  
アラーム閾値に到達しました。



**保存**  
自動的に再読み込みされるよう、事前に読み込んだ写真（データの視覚表現用の背景作成用）を保存します。



**ロードセルデータの表示**  
ロードセルのデータ読み取り値を表示します。



**レポートの作成**  
このボタンをクリックすると、INSIGHTソフトウェアが自動的にレポートファイルを生成します。



**重心**  
このボタンをクリックすると、重心画面に移動します。



**ブルーテストプラス (PTP)**  
このボタンをクリックすると、PTP画面に移動します。



本取扱説明書は、最新の製品の説明と仕様を説明するために編集されています。  
クロスビー | ストレートポイント は、本規約中の内容を予告なしに変更する権利を留保し、提供された情報への依存によって生じた損害(結果的な損害を含む)について責任を負いません。

クロスビー | ストレートポイント 製品およびサービスの唯一の保証は、そのような製品およびサービスに付随する保証書に記載されています。ここに記載されている内容は、追加の保証を構成するものと解釈されるべきではありません。

@本取扱説明書は、クロスビー | ストレートポイントの所有物です。

テクニカルサポートが必要な場合に簡単にするために、次の情報を入力してください。

ソフトウェアバージョン	
メディア	USB メモリ <input type="checkbox"/> ダウンロード <input type="checkbox"/>
購入日	

## 商標

Windows® 7、Windows® 8、およびWindows®10は、米国およびその他の国におけるマイクロソフト社の登録商標または商標です。

## マークと記号

本取扱説明書では、次の記号が使用されます。



メモまたは注意が必要な場所を示します。



**重要** ソフトウェアまたはロードセルの監視の適切な機能に必要な重要なステップ、命令または情報を示します。



**注意** 従わない、または回避しない場合、人身傷害または財産の損害を引き起こす可能性がある潜在的に危険な状況を示します。

■ お問い合わせ先



[info@martec.co.jp](mailto:info@martec.co.jp)  
[www.martec.co.jp](http://www.martec.co.jp)



本 社	〒650-0046	神戸市中央区港島中町5-1-1	TEL. 078-302-0460 / FAX 078-302-1404
東 京 支 店	〒104-0052	東京都中央区月島1-27-9第4いかわビル	TEL. 03-5546-1232 / FAX 03-5546-1238
名 古 屋 支 店	〒455-0801	名古屋市港区小碓2-126	TEL. 052-389-5300 / FAX 052-389-5301
神 戸 支 店	〒650-0046	神戸市中央区港島中町5-1-1	TEL. 078-302-2370 / FAX 078-302-0446
福 岡 支 店	〒816-0912	福岡県大野城市御笠川2-16-18	TEL. 092-513-3061 / FAX 092-513-3062
札 幌 営 業 所	〒003-0871	札幌市白石区米里1条2-14-12	TEL. 011-872-7161 / FAX 011-872-7170
仙 台 営 業 所	〒984-0012	仙台市若林区六丁の目中町30-24	TEL. 022-287-3140 / FAX 022-287-3144
北 関 東 営 業 所	〒370-0854	群馬県高崎市下之城町532-4	TEL. 027-367-4611 / FAX 027-367-4615